

# 育児とスマートフォン

Child Care and Smartphones

橋元 良明 HASHIMOTO, Yoshiaki

久保 隅 綾 KUBOSUMI, Aya

大野 志郎 OHNO, Shiroh

## 目次

0. 調査の概要	橋元良明・大野志郎
0.1 調査の目的	
0.2 調査方法	
0.3 回答者の分布	
1. 幼児(第一子)に利用させている情報機器、アプリ、コンテンツ	橋元良明
1.1 スマートフォンは何歳から使わせるべきか	
1.2 実際に、スマートフォンを何歳から使わせたか	
1.3 幼児に利用させている情報機器の利用状況	
1.4 幼児の利用するアプリ、コンテンツ利用	
2. スマートフォンを使うようになってからの幼児の変化	橋元良明
3. 幼児のスマホ依存	橋元良明
4. 母親による子どものメディア利用に関する取り組みと介入	久保隅綾
4.1 親による子どものメディア利用への取組と介入：Parental Mediation	
4.2 Parental Mediation の属性別実施状況	
4.3 母親の Parent Mediation と子どもの情報機器利用時間およびスマホ依存度	
4.4 母親の Parental Mediation と子どものスマートフォン利用の効用認知	
4.5 母親の Parental Mediation と情報機器利用効用認知	
5. 育児ストレスと、スマホの効用・情報源・子供の共感性・問題行動	大野志郎
5.1 母親の育児ストレス	
5.2 育児情報源と育児ストレス	
5.3 スマホの効用・コスト感と育児ストレス	
5.4 子供の共感性・問題行動と育児ストレス	
5.5 本章のまとめ	

## 補足資料 単純集計

---

橋元良明	東京大学大学院情報学環
久保隅綾	GOB Incubation Partners 株式会社
大野志郎	東京大学大学院情報学環

本報告のベースとなる調査は、株式会社 KDDI 総合研究所と東京大学大学院情報学環橋元研究室の共同研究の一環として実施されたものであり、本報告は当該共同研究の成果の一部である。

## 0. 調査の概要

### 0.1 調査の目的

2017年から3年間、我々はKDDI総合研究所との共同研究として、乳幼児における情報機器利用や利用するネットアプリの実態、その影響、育児との関わり等について研究を進めてきた。その成果の一端は、この調査研究紀要に掲載された下記の論文である。

橋元良明・大野志郎・久保隅綾(2018)「乳幼児期における情報機器利用の実態」、『東京大学大学院情報学環 情報学研究 調査研究編』No.34, pp.213-244.

久保隅綾・橋元良明・大野志郎(2018)「乳幼児を持つ共働き夫婦の仕事と家庭の両立と情報機器利用実態」、『東京大学大学院情報学環 情報学研究 調査研究編』No.34, pp.245-284.

橋元良明・久保隅綾・大野志郎(2019)「育児とICT—乳幼児のスマホ依存、育児中のデジタル機器利用、育児ストレス」『東京大学大学院情報学環 情報学研究 調査研究編』No.35.

その後もスマートフォンの普及は進展し、育児に携わる母親の大半が利用しているほか、幼児の「利用」もさらに進んでいる。

そのような状況で我々はさらに次のことを明らかにすることを目的として、3歳から10歳の第一子をもつ母親にオンライン上でアンケート調査を試みた。

- (1) 幼児の情報機器利用の実態は現在どのようになっており、その影響を母親はどのように認識しているのか。とくにポジティブな影響について、どう評価しているのか。
- (2) いわゆる「スマートフォン依存」の低年齢化が懸念される中、幼児の依存傾向はどうなっているのか。
- (3) アメリカなどで盛んに議論されている「親によるこどものメディア利用への介入や取り組み(Parental Mediation)」の日本での実態はどのようなものか。
- (4) 母親は育児の中でスマートフォンとどのように関わっているのか。それによって育児に何らかの影響があるのか。
- (5) 新たな情報環境下で母親はどのような育児ストレスを抱えており、そこにスマートフォンはどのように関係しているのか。

### 0.2 調査方法

- (1) 調査対象者：株式会社マクロミルの全国のモニターのうち、3歳から10歳の第一子と同居している女性。子供の年齢1歳刻みで各155サンプルを均等に回収した。
- (2) 調査方法：オンラインアンケート調査。はじめに事前調査を実施して対象者を抽出し、本調査の対象とした。
- (3) 本調査有効回答数：1,240票（事前調査配布数約30,000票）

(4) 調査期間：2019年8月6日～8月7日（事前調査と本調査は連続して実施）

### 0.3 回答者の分布

回答者の年齢、居住地、未既婚の分布は表 0.3 の通りである。

表 0.3 回答者の年齢、居住地、未既婚の分布

年齢	居住地	未既婚
20才～24才   1 %	北海道   3.5 %	未婚   6.6 %
25才～29才   7.2 %	東北地方   6.9 %	既婚   93.4 %
30才～34才   26.9 %	関東地方   26.3 %	
35才～39才   35.7 %	中部地方   21.3 %	
40才～44才   20.5 %	近畿地方   19.4 %	
45才～49才   7.7 %	中国地方   8 %	
50才～54才   0.8 %	四国地方   3.5 %	
55才～59才   0.1 %	九州地方   11 %	
60才以上   0.1 %		

## 1. 幼児(第一子)に利用させている情報機器、アプリ、コンテンツ

### 1.1 スマートフォンは何歳から使わせるべきか

Q2 では自分の子どもには何歳からスマートフォンを使わせるのが望ましいかを質問した。

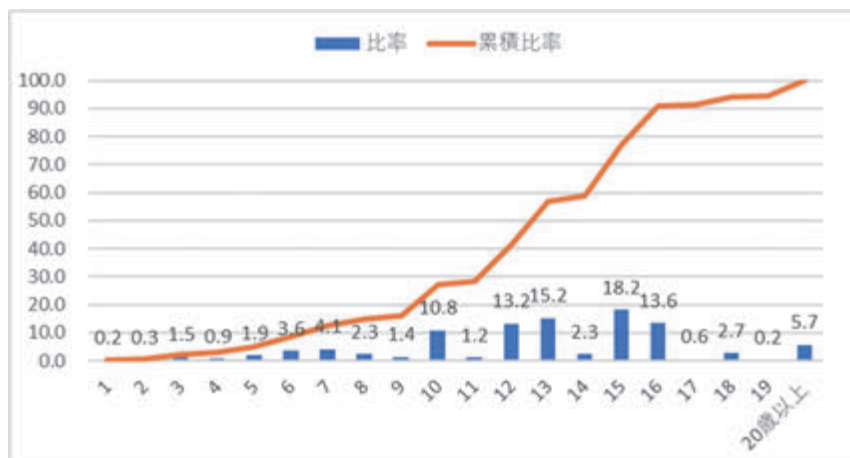


図 1.1.1 子どもには何歳からスマートフォンを使わせるべきか

その結果を回答年齢別に示したのが図 1.1.1 である。図に示されるとおり、高校入学後の 15 歳、16 歳、中学入学後の 12 歳、13 歳、そして数値の区切りがよいせいか 10 歳がそれぞれピークを形成している。累積では 13 歳で 50%を超える。

平均は 12.8 歳、開始許容平均年齢に、子どもの性別(t 検定)、学歴(F 検定)、世帯年収(同)による有意差はない。母親の職業に関しては一元分散分析で危険率 5%未満で有意差があり、フルタイムとその他(無職等)が低年齢(12.5 歳、12.6 歳)、パート・アルバイトが 13.2 歳でやや年齢が高い。

### 1.2 実際に、スマートフォンを何歳から使わせたか

Q3 では、子どもにスマートフォンを利用させ始めた年齢を質問した。子どもの実年齢ごとに開始年を示したのが表 1.2.1 である。

この質問では「利用させた」というワーディングを用いており、Q4 のように「見せたり、使わせたりしている」というワーディングとは異なる。

表に見られるように、3 歳から 10 歳までの全体でも利用率は 19.4%である。子どもの実年齢別に見れば、本来、年齢が上がるにつれ利用率が高まることが予想されるにも関わらず、3 歳時の利用率が 25%と、けっして他の年齢より低くない。このことは子どもの誕生が現在に近づくにつれ、スマートフォン利用に対する許容度が高くなっていることを示している。10 歳の子でも利用率は 24.5%で利用開始平均年齢が 8.0 歳である。

表 1.2.1 幼児にスマートフォンを利用させ始めた年齢（幼児の年齢ごと、単位：％）

幼児実年齢	使用開始年齢											不 使 用	利 用 率	利用者(N=238)の 利用開始平均年齢
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
3	1.3	2.0	13.2	8.6	—	—	—	—	—	—	—	75.0	25.0	2.2
4	0.0	1.3	7.8	13.6	2.6	—	—	—	—	—	—	74.7	25.3	2.7
5	0.0	0.0	1.3	7.9	10.5	2.6	—	—	—	—	—	77.6	22.4	3.6
6	0.0	0.0	2.6	5.9	2.0	4.0	3.3	—	—	—	—	82.2	17.8	4.0
7	0.0	0.7	0.7	3.9	2.0	2.6	0.7	2.0	—	—	—	87.6	12.4	4.2
8	0.0	1.3	1.3	2.6	0.7	3.2	1.3	3.9	2.6	—	—	83.2	16.8	5.1
9	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.3	1.3	0.0	3.3	4.6	—	88.9	11.1	7.5
10	0.0	0.0	0.0	1.3	0.7	0.7	3.2	2.6	3.2	6.5	6.5	75.5	24.5	8.0
全体	0.2	0.7	3.3	5.6	2.3	1.8	1.2	1.1	1.1	1.4	0.8	80.6	19.4	4.4

### 1.3 幼児に利用させている情報機器の利用状況

Q4 では 3 歳から 6 歳までの幼児(第一子)の情報機器利用状況を尋ねた (図 1.3.1)。

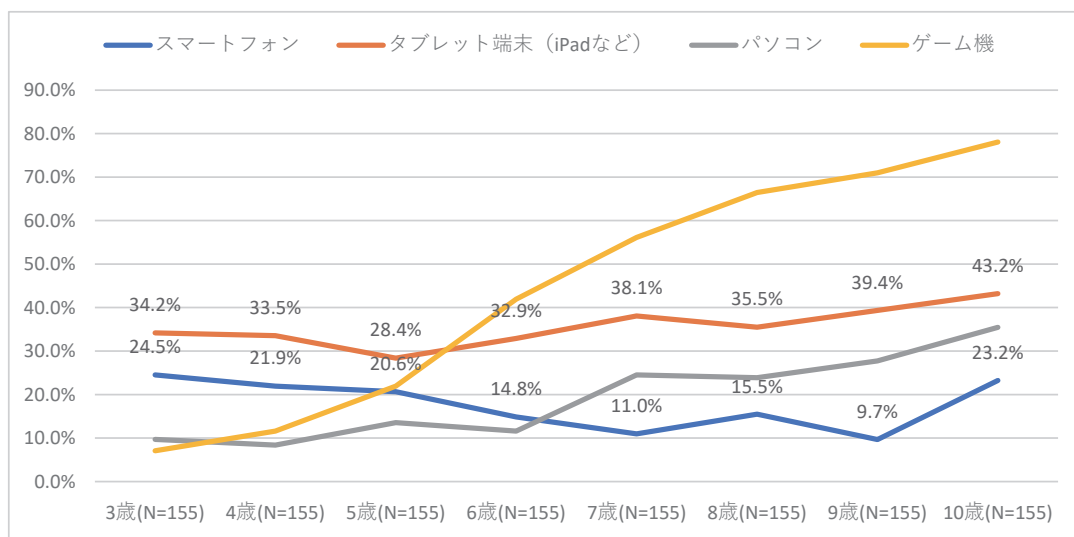


図 1.3.1 幼児の年齢別情報機器の状況

図にはスマートフォン以下、4つの情報機器の年齢別利用状況が示されている。前述したように、この質問では「お子さんに見せたり、使わせたりしている」というワーディングを用いている。また、質問では「子ども専用の機器」「親などと共用の機器」「利用させていない」の3つの選択肢をもうけているが、図では、前2者を合計した数値（ともかく使ったり、触れたりしている率）を示している。図中、タブレットとスマートフォンに数値(%)を記した。

この質問に対する回答比率ではスマートフォンの利用率は3歳児において最も高い数値(24.5%)となっている。以降、9歳までむしろ利用率は低下する傾向にある。これは社会全般でのスマートフォンの普及率の推移を反映していると見るべきであろう。

むしろタブレットの方の利用率が高く、3歳児で34.2%、それ以上の年齢ではいつとき微減するものの5歳以降は上昇に転じ、10歳では43.2%である。

表 1.3.1 幼児の情報機器の利用／非利用と各種デモグラフィック特性との関連の有意性 ( $\chi^2$  検定結果)

	幼児性別	母親職業	世帯年収	母親学歴
スマートフォン	ns	ns	ns	**
タブレット端末	ns	ns	ns	ns
パソコン	ns	**	***	***
ゲーム機	***	***	ns	**

ns : 有意差なし, \*:p<0.05, \*\*:p<0.01, \*\*\* : p<.001

表に示されるとおり、子どもの性別との関連ではゲーム機だけが有意差があり（男児＞女児）、母親の職業との関連では、パソコンに関してフルタイム＞パート＞その他の順、ゲーム機に関してパート＞その他＞フルタイムで利用率が高く、世帯年収との関連では、高収入なほどパソコンの利用率が高かった。

母親の学歴に関しては表 1.3.2 で詳細を記したように(有意差のあったもののみ抽出)、スマートフォンでは中高卒の子の利用率が高く、パソコンでは逆に学歴が高いほど利用率が高く、ゲーム機は学歴が低いほど利用率が高い。

表 1.3.2 母親の学歴別にみた幼児の主な情報機器の利用状況

	スマートフォン	パソコン	ゲーム機
中高卒	23.8	11.6	50.6
短大専門	14.1	21.6	44.8
大学以上	16.4	23.4	38.9
$\chi^2$ 値	13.10**	18.81***	10.74**

$\chi^2$  値は幼児における各機器の利用の有無と母親の学歴のクロス集計(垂直列)における分析結果

ns : 有意差なし, \*:p<0.05, \*\*:p<0.01, \*\*\* : p<.001

残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

#### 1.4 幼児の利用するアプリ、コンテンツ利用

Q6 において、幼児に見せたり使わせたりしているスマートフォンやタブレット端末でよく利用しているサイトやアプリを質問した(複数回答)。ここではとくにデバイスの指定はない。なお、この分析の分析母数は調査対象者全体の N=1240、各年齢で N=155 である。

表 1.4.1 年齢別にみた幼児に利用させているサイトやアプリ

	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	全体
YouTube	67.7%	67.7%	58.1%	66.5%	64.5%	70.3%	63.2%	70.3%	66.0%
YouTube Kids	11.0%	12.9%	9.7%	5.8%	6.5%	7.7%	1.3%	2.6%	7.2%
YouTube以外の動画サイト・アプリ	1.9%	3.9%	2.6%	3.2%	1.9%	5.2%	1.3%	5.8%	3.2%
LINE	7.1%	5.8%	4.5%	5.8%	7.7%	11.0%	11.6%	13.5%	8.4%
LINE以外のSNS (Twitter、Facebook、Instagramなど)	2.6%	0.6%	1.3%	0.6%	3.2%	0.6%	1.3%	3.9%	1.8%
写真共有サイト・アプリ	7.7%	7.1%	6.5%	4.5%	5.2%	3.2%	3.9%	5.8%	5.5%
ゲーム	11.6%	21.9%	15.5%	27.7%	28.4%	39.4%	33.5%	37.4%	26.9%
マンガ	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	2.6%	1.9%	3.9%	1.5%
知育や学習用サイト・アプリ	14.8%	17.4%	16.8%	10.3%	20.6%	11.6%	16.1%	12.9%	15.1%
子育てサポートアプリ (鬼から電話、など)	5.8%	5.2%	4.5%	5.8%	2.6%	1.3%	0.6%	0.0%	3.2%
英語教育のための動画や音楽	4.5%	4.5%	4.5%	5.2%	5.2%	6.5%	3.9%	2.6%	4.6%
絵本や童話	10.3%	9.0%	6.5%	3.2%	2.6%	4.5%	5.8%	1.3%	5.4%
お絵かき	11.0%	11.6%	4.5%	4.5%	3.9%	6.5%	2.6%	1.9%	5.8%

表に示される通り、全体では YouTube の利用率が最も高く(66.0%)、ついでゲーム(26.9%)、知育や学習用サイト・アプリ(15.1%)と続いている。

表中、注目すべきなのは3歳における YouTube 利用率が 67.7%に達していることである。図 1.3.1で示したとおり、3歳のスマートフォン利用率は 24.5%、タブレット 34.2%、PC9.7%であるので、それらの情報機器を利用している乳児のほとんどが YouTube を見ていることになる。知育アプリを利用させている率も3歳児からかなり高い。

表 1.4.2 年齢別にみた幼児が見ている動画

	3歳 (N=109)	4歳 (N=113)	5歳 (N=94)	6歳 (N=107)	7歳 (N=105)	8歳 (N=112)	9歳 (N=99)	10歳 (N=110)	全体 (N=849)
キャラクター・アニメ (アンパンマン、ドラえもん、など)	62.4%	57.5%	56.4%	51.4%	34.3%	32.1%	25.3%	21.8%	42.6%
こども向け番組 (いないいないばあっ!、など)	25.7%	29.2%	20.2%	10.3%	8.6%	8.9%	4.0%	3.6%	13.9%
ユーチューバー	37.6%	46.9%	44.7%	51.4%	59.0%	70.5%	69.7%	71.8%	56.5%
おもちゃの紹介	62.4%	59.3%	53.2%	53.3%	54.3%	36.6%	37.4%	28.2%	48.1%
ゲームの攻略法、実況中継	2.8%	3.5%	12.8%	20.6%	23.8%	36.6%	38.4%	49.1%	23.4%
音楽/歌手/ダンス	24.8%	30.1%	27.7%	18.7%	24.8%	29.5%	31.3%	31.8%	27.3%
乗り物	24.8%	21.2%	9.6%	6.5%	3.8%	2.7%	12.1%	3.6%	10.6%
動物	11.0%	7.1%	8.5%	1.9%	3.8%	3.6%	4.0%	7.3%	5.9%
教育・知育	11.0%	12.4%	12.8%	6.5%	8.6%	4.5%	5.1%	3.6%	8.0%
読書、絵本	10.1%	6.2%	6.4%	6.5%	2.9%	2.7%	4.0%	2.7%	5.2%
手遊び動画	19.3%	13.3%	6.4%	1.9%	4.8%	1.8%	2.0%	1.8%	6.5%

表 1.4.2 では年齢別に幼児が見ている動画の種類を尋ねた。この質問の分析母数は前問 Q6で子どもが「YouTube」「YouTube Kids」「YouTube 以外の動画サイト・アプリ」を見ていると答えた人(N=849)であり、年齢ごとに分析母数が異なる。

全体では「ユーチューバー」が最も多く、「キャラクター・アニメ」「おもちゃの紹介」がそれに続く。3歳児では「キャラクター・アニメ」と「おもちゃの紹介」への接触率がとくに高い。

## 2. スマートフォンを使うようになってからの幼児の変化

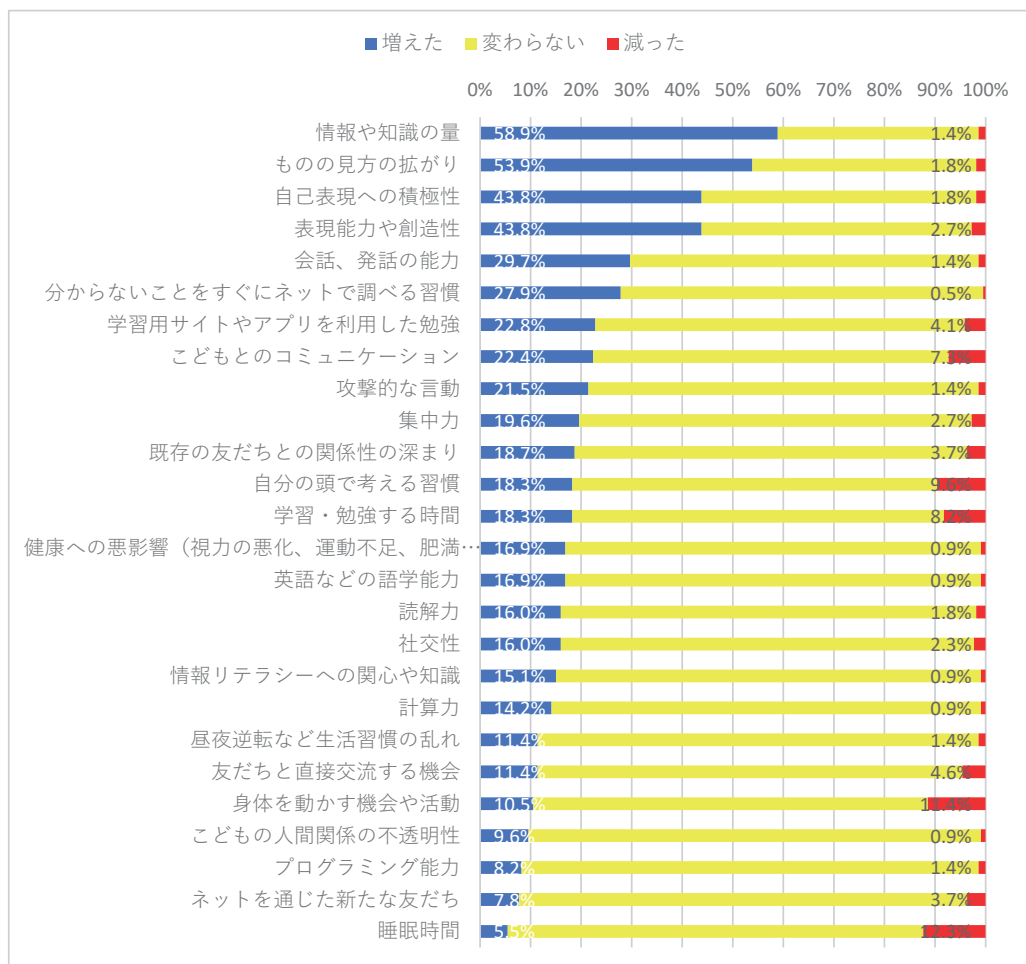


図 2.1 スマートフォンを使うようになってからの幼児の変化 (N=219、「増えた」の比率に従って降順に整序した)

Q8 ではスマートフォンを使うようになってからの子どもの変化を質問した。調査では「1.増えた」「2.やや増えた」「3.変わらない」「4.やや減った」「5.減った」の5択であったが、ここでは1.2.を合算し「増えた」比率とし、4.5.を合算して「減った」比率とした。また、図では「増えた」の比率に従って降順に整序した。

図に示されるとおり、プラスの影響についてはいずれの項目も「増えた」が「減った」を上回っている。

とくに「増えた」が多かったのが、「情報や知識の量(58.9%)」「ものの見方の広がり(53.9%)」「自己表現への積極性(43.8%)」「表現能力や創造性(43.8%)」である。

否定的な影響の「攻撃的な言動」「健康への悪影響（視力の悪化、運動不足、肥満など）」が「増えた」と答えた人はそれぞれ21.5%、16.9%にすぎなかった。



### 3. 幼児のスマホ依存

Q9ではヤングの8項目基準を元に、我々が幼児向けに一部修正を加えた「スマートフォン依存（以降「スマホ依存」）の判定項目」に該当するか否かを質問した。この質問に答えたのはQ4で「スマートフォンを利用している」と答えた219名である。幼児に直接尋ねることは困難であるので、あくまで母親が自分の幼児に関して判断した結果である。

表 3.1 幼児向けスマホ依存判定項目ごとの該当率

すぐにスマートフォンを使いたがる(没入)	69.4%
やめようね、と言ってもスマートフォンをやめない(制御不能)	47.0%
スマートフォンを取り上げると機嫌が悪くなる(禁断症状)	40.6%
決めた時間以上にスマートフォンをいじっていてやめられない(時間延長)	37.0%
スマートフォンに夢中で約束をやぶったり、食事をとらなかつたりすることがある(生活上のトラブル)	22.8%
時間つぶしのためにスマートフォンをいじっている(現実逃避)	53.4%
スマートフォンをしていたのに、していなかったフリをすることがある(隠蔽)	18.7%
必要もないのに、いつまでもだらだらスマートフォンをいじっている(耐性・麻痺)	30.1%

※括弧内は質問の趣旨で、アンケート上には表されない。

ちなみにヤング8項目基準の一般向けの質問文は下記の通りである(日本語は総務省情報通信政策研究所と橋元研究室の共同研究バージョンで毎年実施している「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」で使用しているもの)。

- (1) ネットを利用していない時も、ネットのことを考えている(没入)
- (2) より多くの時間、ネットをしないと満足できない(耐性・麻痺)
- (3) ネットの利用時間をコントロールしようとしても、うまくいかない(制御不能)
- (4) ネット利用を控えようとすると、落ち着かなくなったり、いらいらしたりする(禁断症状)
- (5) もともと予定していたよりも長時間ネットを利用してしまう(時間延長)
- (6) ネットのせいで、家族・友人との関係が損なわれたり、仕事や勉強などがおろそかになりそうになっている(生活上のトラブル)
- (7) ネットを利用している時間や熱中している度合いについて、家族や友人に嘘をついたことがある(隠蔽)
- (8) 現実から逃避したり、落ち込んだ気分を盛り上げるためにネットを利用している(現実逃避)

通常のヤング8項目基準の原則に従い、表3.1.1のうち、5項目以上に「あてはまる」と答えた場合に「スマホ依存傾向が疑われる幼児(以降、「依存傾向者」)。該当者の比率を「依存傾向者率」と呼ぶ」とした。

この質問の回答対象は既述の通りスマートフォン利用幼児であるが、一般に「依存率」という場合、分母は分析母数全体(たとえば中学生対象調査であれば、分析した中学生全体に対する依存者の割合)であることが多いため、ここでも、分析の分母を調査対象者全体(N=1240)、分子を「依存傾向者の数」として計算した。

表 3.2 年齢別・男女別幼児の依存傾向者率(参考：利用者中の依存傾向者率)

	全体中 (N=1240)	利用者中 (N=219)
3歳	2.6%	10.5%
4歳	9.0%	41.2%
5歳	4.5%	21.9%
6歳	1.9%	13.0%
7歳	3.2%	29.4%
8歳	5.8%	37.5%
9歳	4.5%	46.7%
10歳	9.7%	41.7%
男児	5.4%	32.1%
女児	4.9%	26.5%
全体	5.2%	29.2%

表 3.2 には、年齢別・男女別の幼児の依存傾向者率を示した。また、参考として分析母数をスマートフォン利用者限定した依存傾向者率の比率も示した。

表に示される通り、依存傾向者率は3～10歳全体では5.2%であるが、10歳で9.7%という数値を示していることは注目すべきであろう。さらにスマートフォン利用者を分析母数として依存傾向者率を見た場合、3歳で10.5%、4歳で41.2%の高率を示し、9歳10歳で40%を超えていることを見れば、やがて年齢が増してスマートフォン利用率がほぼ100%に達する時期になったとき、全体を母数とした場合の依存傾向者率もかなりの高率となることが容易に予想される。

ちなみに総務省情報通信政策研究所と橋元研究室の共同研究による全国調査「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」の2018年度結果(総務省サイト上のほか『情報通信白書』にも記載)によれば、ヤング基準を用いたネット依存率は10代19.9%、20代9.1%である。

なお、今回の調査における依存傾向者率と母親の学歴、母親職業、世帯年収との関係を $\chi^2$ 検定で分析したところ(「依存/非依存」とそれぞれのカテゴリーとのクロス集計)、いずれの属性とも依存傾向者率とは有意な関係を持たなかった。

また、依存傾向率とは別に、8項目中、いくつ該当項目があったかを「依存傾向度」として計算しているが、この依存傾向度に関し、母親の依存傾向度と子の依存傾向度との相関をとったところ(対象は子どもがスマートフォン利用者の219)、相関係数0.328で危険率0.1%未満の水準で有意な関係が見られた。

#### 4. 母親による子どものメディア利用に関する取り組みと介入

スマートフォンやタブレット端末などの情報機器が日常に溢れ、子どものメディア利用が低年齢化しつつある状況において、アメリカ小児学会や世界保健機関（以下 WHO）では乳幼児のメディア利用に関し、心身の発達や健康への悪影響を懸念し、その利用を制限する提言を行っている。例えばアメリカ小児学会はその提言内において、1歳以下の乳児のメディア利用は避け、また、2歳から5歳の子どもは一日に1時間以内、高品質のプログラムのみを視聴することといった指針を提示している（American Academy of Pediatrics, 2016）。同様に、WHOでは、スクリーンタイムが直接的な要因というよりも、座位で頭も体を動かさない活動時間が多いことは子どもの肥満や発達に悪影響があるとし、1歳以下の乳幼児の座位でのスクリーンタイムは全くないほうが望ましく、2歳から4歳までの幼児は座位でのスクリーンタイムを一日1時間以内に制限することを親や保護者、教育者に対し推奨している（World Health Organization, 2019）。子どもにとってもスマートフォンが身近な存在になりつつある昨今、スマートフォンなどの情報機器とどのように付き合えばよいか、親にとっても悩ましい問題である。

子どものメディア利用時間を制限するといった親による子どものメディア利用への介入や取り組みは”Parental Mediation（以下 PM）”と呼ばれ、もともとは子どものテレビ視聴を管理したり、制限したりするといった親の積極的な役割を指していたが、近年ではゲーム、インターネットなど多様なメディア利用に対して援用されている（Clark, 2011）。

日本でも子どものインターネット利用に対する親の管理方法や介入実態に関連した調査がなされている。例えば、子どもがインターネットを利用していると回答した0歳から9歳までの低年齢層の子どもの保護者1,294人に、家庭でインターネットの使い方について何かルールを決めているか尋ねた結果、「ルールを決めている」という回答は80.8%であった（内閣府, 2019）。しかしながら、一般社団法人日本教育情報化振興会(2018)が実施した乳幼児のIT機器利用に関する調査によれば、PMの一つの方法である、スマートフォンのペアレンタルコントロールについて、「利用している」という回答は若干5.2%に留まり、66.2%もの親が「ペアレンタルコントロールが何なのかわからない」と回答している。PMに関して、家庭内で子どものインターネット利用のルールは決めているものの、ルールや管理に関して親が認知する情報や知識、手段については乏しく、発展状況といえよう。

海外におけるPMの先行研究では、親による子どものメディア利用への取り組みや介入は子どものメディア利用やスキルに大きな影響を及ぼしており（Nikken & Schols, 2015）、インターネット利用のネガティブおよびポジティブな影響を予測している親ほど、子どものメディア利用に対する何らかの措置や取り組みを行っているという（Nikken & Jansz, 2014）。親が子どものインターネットや情報利用に関して関心を持ち、積極的なPMを講ず

ることは子どものインターネットや情報機器とのリスクを低減するだけでなく、より安全で、豊かな IT 利用をもたらすのではないだろうか。

そこで、本章では母親がどのような PM を行っているのか、その実態を概観するとともに、PM の積極度により母親の子どものスマートフォン利用時間、スマートフォン依存度、そして子どものスマートフォン利用に対する効用や、母親自身の情報機器利用の効用の認知がどのように異なるのかを検討する。

#### 4.1 親による子どものメディア利用への取組と介入：Parental Mediation

日本における先行研究では、PM の実態把握に関して、メディア利用のネガティブな影響を想定し、フィルタリングやペアレントコントロールの実施といった子どものメディア利用を制限するような取り組みや介入が中心に検討されている。しかしながら、親が子どもと積極的にメディアを共に利用するといったポジティブな介入方法もあるだろう。そこで、親による子どものメディア利用への介入や取り組みを包括的に把握するため、EU25 カ国の 9 歳から 16 歳までの子どもに対する PM を調査した Dürager & Livingstone(2012)から Technical Mediation (技術的メディア利用介入) 3 項目、Monitoring (監視) 3 項目、Restrictive Mediation (メディア利用の制限) 2 項目、Active Mediation of Internet Safety (安全なインターネット利用のための積極的メディア利用介入) 3 項目、Active mediation of Internet Use (インターネット利用の積極的メディア利用介入) 3 項目の合計 14 項目、Restrictive Mediation に関しては Sanders, Parent, Forehand & Breslend (2016) より 2 項目を追加し、3 歳から 10 歳の子どもを対象とした本調査と日本の状況や文脈に照らし合わせて和訳と文言修正を行い、設問を設定した。設問文は「お子さんのインターネットやスマートフォンの利用やルールについて、あなたは次のことをしていますか。あてはまるものをお選びください。」で、「1. 常にしている」、「2. ときどきしている」、「3. あまりしていない」、「4. まったくしていない」の 4 件法でその実施状況を尋ねた。尚、本章の分析はスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末のいずれかの機器を子どもに利用させていると回答した母親 (N=736) を対象とする。

#### 4.2 Parental Mediation の属性別実施状況

表 4.1 に PM 全 14 項目につき、全体、子どもの性別および学齢別の実施状況を示す。最も実践されている親による子どものメディア利用に対する措置は Active mediation of Internet Use における「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」で、およそ半数強の 57.7%の母親が実施している。次いで、「子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする (49.2%)」、「インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える (39.7%)」であった。最も実施されていない PM は Monitoring

表 4.1 全体／子どもの性別、学齢別 Parent Mediationの実施割合(単位：%)

Parental mediation		全体	男児	女児	$\chi^2$ 値	検定結果	未就学	就学	$\chi^2$ 値	検定結果
		N=736	365	371			263	473		
Technical Mediation	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	22.3	23.6	21.0	0.68	n.s.	15.6	26.0	10.59	**
	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	18.1	16.2	19.9	1.78	n.s.	11.0	22.0	13.72	***
	特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	22.0	21.6	22.4	0.06	n.s.	14.4	26.2	13.63	***
Monitoring	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	15.9	14.2	17.5	1.48	n.s.	9.5	19.5	12.50	***
	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	17.3	15.1	19.4	2.43	n.s.	8.4	22.2	22.65	***
	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	17.8	15.6	19.9	2.36	n.s.	11.8	21.1	10.11	**
Restrictive Mediation	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	25.5	24.7	26.4	0.30	n.s.	17.1	30.2	15.30	***
	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	29.5	29.6	29.4	0.00	n.s.	18.3	35.7	24.84	***
	インターネットのコンテンツや内容を制限する	28.3	27.4	29.1	0.27	n.s.	18.3	33.8	20.23	***
	インターネットにアクセスできる時間を制限する	30.6	32.6	28.6	1.41	n.s.	20.9	35.9	17.99	***
Active Mediation of Internet Safety	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	22.3	20.3	24.3	1.69	n.s.	13.7	27.1	17.46	***
	インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える	39.7	38.6	40.7	0.33	n.s.	22.8	49.0	48.61	***
Active mediation of Internet Use	良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する	30.2	31.0	29.4	0.22	n.s.	17.9	37.0	29.36	***
	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	32.6	30.4	34.8	1.59	n.s.	25.9	36.4	8.49	**
	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	57.7	59.2	56.3	0.61	n.s.	54.8	59.4	1.50	n.s.
	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話を	49.2	48.5	49.9	0.14	n.s.	37.3	55.8	23.27	***

※N 数は子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と子どもの年齢、性別のクロス集計の $\chi^2$ 検定結果。\*\*\*:  $p < .001$ , \*\*:  $p < .01$ , n.s.: 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

(監視)の「子どもが SNS やオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する (17.3%)」であるが、本調査対象の子どもの年齢を鑑みると、そもそも子どもが SNS に登録、利用していないため、この措置自体が必要ないことが考えられる。概してインターネット利用や安全性確保のための母親による直接的なメディア利用介入が実施され、それらと比較すると技術的な利用措置、監視といった間接的な介入に対しては比較的消極的である。取り組み自体に設定などの手間や時間がかかったり、ペアレンタルコントロールのように知識が必要とされるような PM の手段や方法は母親に敬遠されるのかもしれない。

子どもの性別においては、全ての項目で有意差はなかった。学齢では、未就学児と比較して就学児が「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」以外の全ての項目で有意に回答割合が高く、残差分析の結果でも、有意に就学児の回答割合が高かった。子どもの学齢が上がるとともに親が PM を講ずるようになるのであろう。特に、Restrictive Mediation (メディア利用の制限) は就学児ほど取り組みがなされており、このことから、就学児になるにつれ、SNS など友人などの他者と交流したり、コミュニケーションしたりするために情報機器を利用するようになることが示唆される。

つづいて、母親の属性別に PM の実施状況を概観する。母親の年代別 (表 4.2) の関連では、「子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している」、「子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている」、「子どもが SNS やオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する」、「インターネットのコンテンツや内容を制限する」の項目において、母親の年代での有意差はみられなかった。「特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている」において、30 代の母親で回答割合が低く、40 代の母親で回答割合が高い傾向があり、それ以外の全ての項目では 30 代の母親で有意に回答割合が低く、40 代の母親で回答割合が高かった。母親の年代別の PM は、40 代以上ほど実施率が高く、次いで、20 代以下、総じて 30 代が最も実施率が低い傾向があるといえよう。学齢期の子どもを持つであろう 40 代の母親で実施率が高いと推察される。

次に母親の職業別の結果を表 4.3 に示す。フルタイム、パートタイム・アルバイト、専業主婦の順で総じて PM 実施率が高く、「インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える」、「子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする」、「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」、「子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする」の項目を除いた全ての項目で有意差もしくは有意な関連がみられた。残差分析の結果においても、「子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している」、「子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている」、「特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている」、「子どもが SNS

表 4.2 母親の年代別 Parent Mediation の実施割合 (単位 : %)

Parental mediation		母親年代 (N=736)				χ <sup>2</sup> 値	検定結果
		全体	20代以下	30代	40代以上		
	N	736	58	443	235		
Technical Mediation	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	22.3	20.7	21.7	23.8	0.51	n.s.
	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	18.1	17.2	16.5	21.3	2.42	n.s.
	特定のウェブサイトをブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	22.0	22.4	19.2	27.2	5.80	†
Monitoring	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	15.9	20.7	13.8	18.7	3.90	n.s.
	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	17.3	20.7	14.4	21.7	6.18	*
	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	17.8	17.2	15.1	23.0	6.49	*
Restrictive Mediation	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	25.5	24.1	22.3	31.9	7.46	*
	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	29.5	24.1	25.7	37.9	11.75	**
	インターネットのコンテンツや内容を制限する	28.3	22.4	26.4	33.2	4.54	n.s.
	インターネットにアクセスできる時間を制限する	30.6	24.1	27.1	38.7	11.02	**
Active Mediation of Internet Safety	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	22.3	20.7	19.4	28.1	6.76	*
	インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える	39.7	29.3	37.9	45.5	6.54	*
	良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する	30.2	24.1	27.8	36.2	6.23	*
Active mediation of Internet Use	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	32.6	31.0	28.4	40.9	10.83	**
	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	57.7	46.6	55.5	64.7	8.50	*
	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする	49.2	37.9	45.4	59.1	14.85	**

※N 数は子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と母親の年代別のクロス集計のχ<sup>2</sup>検定結果。\*\*: p< .01, \*: p< .05, †: p< .10, n.s. :有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

表 4.3 母親の職業別 Parent Mediationの実施割合(単位: %)

Parental mediation		職業 (N=728)			検定結果
		パートタイム フルタイム	パート タイム	専業主婦	
N		164	226	338	
Technical Mediation	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	29.9	25.2	16.9	12.27 **
	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	28.0	18.6	13.0	16.85 ***
	特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	28.7	25.2	16.9	10.75 **
Monitoring	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	25.0	18.6	9.8	20.86 ***
	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	25.0	20.4	11.8	15.22 ***
	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	24.4	17.7	15.1	6.49 *
Restrictive Mediation	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	33.5	26.5	21.3	8.79 *
	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	36.0	32.7	24.9	7.88 *
	インターネットのコンテンツや内容を制限する	34.1	30.1	24.9	5.04 †
	インターネットにアクセスできる時間を制限する	37.2	31.4	27.2	5.22 †
Active Mediation of Internet Safety	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	29.3	23.5	18.6	7.31 *
Active mediation of Internet Use	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	31.7	35.8	31.1	1.50 n.s.
	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	56.1	55.8	60.4	1.48 n.s.
	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする	47.6	52.2	48.2	1.12 n.s.

※N 数は母親の職業において無職および学生を除き、子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と母親の職業別のクロス集計の $\chi^2$ 検定結果。\*\*\*:  $p < .001$ , \*\*:  $p < .01$ , \*:  $p < .05$ , †:  $p < .10$ , n. s.: 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。



やオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する」、「子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する」、「写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している」、「子どもが子ども自身の SNS プロフィール、アカウントを持つことを制限している」、「子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする」、「良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する」の 9 項目において、有意にフルタイムの実施率が高く、専業主婦の実施率が低く、概してフルタイムほど PM の実施に積極的であり、専業主婦において消極的であるようすが伺える。Active mediation of Internet Use（インターネット利用の積極的メディア利用介入）は 3 項目全てにおいて職業間での有意差がなく、職業に関わらず実施されているといえよう。

続いて母親の学歴別に PM の実施状況を示す（表 4.4）。総じて高卒以下、短大・高専卒、大卒以上のグループ間における PM 実施率に有意差はなく、「インターネットにアクセスできる時間を制限する」のみ、有意差が認められた。全体的に短大・高専卒が他の層と比較して PM の実施割合が低い傾向がみられる。中でも、Monitoring（監視）内の「子どもが SNS やオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する」は残差分析の結果、短大・高専卒の実施率が有意に低かった。それに対して、「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」、「子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする」の 2 項目においては短大・高専卒の実施率が有意に高い。「子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする」については、高卒以下で有意に実施率が低い。高卒以下においては、「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」において、実施率が他の層と比較して有意に低く、Monitoring（監視）の 3 項目においては、有意差はないものの他層より実施率がやや高いことが特徴的である。高卒以下の層では子どもと物理的場所を共にするような PM 手段よりも、自らが手間なく管理できるような PM が好まれているのかもしれない。大卒以上においては、「インターネットにアクセスできる時間を制限する」、「子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする」の 2 項目において、残差分析の結果、有意に実施率が高い結果となった。

最後に世帯年収別の関連みると、総じて年収が高いほど PM の実施率が上がり、特に世帯年収 800 万以上の層で PM の実施率が有意に高い傾向がみられる（表 4.5）。「インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える」、「子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする」の 2 項目のみ、有意差はなかったものの、「子どもが子ども自身の SNS プロフィール、アカウントを持つことを制限している」の項目で 10%水準の有意差がみられ、それ以外の全ての項目において 5%水準未満で有意差が認められた。残差分析の結果においても「インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える」の項

表 4.4 母親の学歴別 Parent Mediation の実施割合 (単位 : %)

Parental mediation		母親学歴 (N=726)			χ <sup>2</sup> 値	検定結果
		高卒以下	短大および 高専・専門 学校卒	大卒以上		
N		209	254	263		
Technical Mediation	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	23.9	18.9	24.3	2.64	n.s.
	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	16.7	14.6	22.4	5.74	†
	特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	26.3	18.1	22.4	4.53	n.s.
Monitoring	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	19.1	12.2	16.7	4.38	n.s.
	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	19.6	15.4	17.5	1.46	n.s.
	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	19.1	15.4	19.0	1.56	n.s.
Restrictive Mediation	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	28.2	22.4	26.2	2.15	n.s.
	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	30.1	28.0	30.8	0.54	n.s.
	インターネットのコンテンツや内容を制限する	29.7	26.8	29.3	0.59	n.s.
	インターネットにアクセスできる時間を制限する	27.8	26.4	<b>37.3</b>	8.41	**
Active Mediation of Internet Safety	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	24.9	18.9	23.6	2.75	n.s.
	インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える	38.8	42.1	38.0	1.01	n.s.
Active mediation of Internet Use	良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する	32.5	26.0	32.7	3.45	n.s.
	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	30.6	28.7	<b>37.6</b>	5.14	†
	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	49.8	<b>63.0</b>	59.7	8.73	*
	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする	44.0	<b>54.7</b>	49.0	5.30	†

※N数は学歴において「わからない/答えなくない」の回答を除き、子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と母親の学歴別のクロス集計のχ<sup>2</sup>検定結果。\*\*: p<.01, \*: p<.05, †: p<.10, n.s.:有意差なし。

※残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

表 4.5 母親の世帯年収別 Parent Mediation の実施割合(単位：%)

Parental mediation		母親世帯年収 (N=596)				χ <sup>2</sup> 値	検定結果
		400万未満	400万未満 -600万未満	600万以上 満	800万以上 -800万未満		
	N	140	201	135	120		
Technical Mediation	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	12.9	18.9	25.2	31.7	15.45	**
	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	14.3	15.9	18.5	28.3	10.17	*
	特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	17.1	19.9	20.7	33.3	11.49	**
Monitoring	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	12.1	12.9	17.0	23.3	7.93	*
	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	11.4	11.9	18.5	30.0	21.37	***
	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	11.4	16.9	16.3	26.7	10.77	*
Restrictive Mediation	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	19.3	19.4	24.4	35.8	13.32	**
	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	23.6	26.9	31.1	38.3	7.72	†
	インターネットのコンテンツや内容を制限する	22.9	26.4	28.9	38.3	8.34	*
	インターネットにアクセスできる時間を制限する	23.6	31.3	28.1	40.0	8.69	*
Active Mediation of Internet Safety	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	14.3	21.4	22.2	30.8	10.41	*
	インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える	34.3	38.3	39.3	46.7	4.29	n.s.
	良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する	20.7	31.3	24.4	42.5	16.92	***
Active mediation of Internet Use	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	25.7	29.4	33.3	46.7	14.74	**
	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	50.7	60.2	53.3	67.5	9.09	*
	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする	42.9	48.8	49.6	57.5	5.58	n.s.

※N数は世帯年収において「わからない/答えなくない」の回答を除き、子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「常にしている」「ときどきしている」と回答した割合と母親の世帯年収別のクロス集計のχ<sup>2</sup>検定結果。\*\*\*: p<.001, \*\*: p<.01, \*: p<.05, †: p<.10, n.s.: 有意差なし。

※残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

目を除く全ての項目で世帯年収 800 万以上の層の実施率が有意に高かった。それに対し、「子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している」、「子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する」、「子どもが訪れたウェブサイトを確認する」、「インターネットにアクセスできる時間を制限する」、「子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする」、「良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する」、「子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする」、「子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる」の 8 項目で残差分析の結果、世帯年収 400 万未満の層の実施率が有意に低いことが示された。

#### 4.3 母親の Parent Mediation と子どもの情報機器利用時間およびスマホ依存度

PM は子どもの情報機器利用にどのような影響を及ぼすのだろうか。Lauricella, Wartella & Rideout (2015)によれば、3歳から17歳までの子どもを持つ615人の親に対して実施した質問紙調査をもとに、子どものスクリーンタイムと親の子どもへのメディア利用介入との関連について分析した結果、親の子どもへのメディア利用介入スタイルが子どものスクリーンタイムに対しポジティブな影響を及ぼしていたという。また、Sanders, Parent, Forehand & Breslend(2016)によれば、0歳から8歳の2300人の親に対し行った調査結果において、テレビ、パソコン、スマートフォンおよびタブレット端末の4つの機器の利用時間と親の情報機器に対する効用認知や態度がポジティブであるほど、子どもの情報機器利用時間が長くなる傾向があるという。そこで本節では、PM14項目を単純加算した平均を算出し、PMの実施度に応じ、低位群、中位群、高位群の3群に分かれるように閾値を定め(表4.6)、これら3群により、子どもの情報機器利用時間およびスマホ依存度に差異が見られるかを探索的に分析した。対象は子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコンもしくはタブレット端末を利用させている母親736人である。

表 4.6 Parental Mediation 4 群の概要

	区間	N	構成比(%)	平均値	SD
低位群	$16 \leq x \leq 21$	250	34.0		
中位群	$22 \leq x \leq 33$	238	32.3	29.943	12.503
高位群	$33 \leq x \leq 64$	248	33.7		

子どものスマートフォン利用時間、スマートフォン・携帯電話・パソコン・タブレット機器の利用時間合計およびスマホ依存度を、子どもの性別、学齢別に t 検定および PM3 群別に一元配置分散分析を行った結果を表 4.7 に示す。スマートフォンの利用時間については、子どもの性別に差はないものの、学齢別では就学児が 69.8 分と未就学児の利用時間 48.2 分と比

べて有意にスマートフォン利用時間が長い。母親の PM 別では、低位群 41.3 分、中位群 63.5 分、高位群 73.3 分の順に子どものスマートフォン利用時間が長い傾向がみられ、母親が PM を実施しているほど、子どものスマートフォン時間が長いことが示唆される。

表 4.7 子どもの性別、年齢別および Parental Mediation 得点別  
情報機器利用時間とスマホ依存

		スマートフォン		スマートフォン・ 携帯電話・PC・ タブレット端末利 用時間合計		スマホ依存		
		N	利用時間	N	用時間合計	N	スマホ依存	
全体		219	58.6	736	68.6	219	3.19	
性別	男児	106	62.2	365	73.4	106	3.36	
	女児	113	55.3	371	64.0	113	3.04	
	t値	0.57	n.s.	1.44	n.s.	0.98	n.s.	
学齢	未就学	113	48.2	263	69.4	113	2.87	
	就学	106	69.8	473	68.2	106	3.54	
	t値	-2.77	*	0.17	n.s.	-2.04	*	
Parent Mediation Style	低位群	83	41.3	a 250	55.4	a 83	2.82	a
	中位群	57	63.5	a 238	69.3	ab 57	2.72	a
	高位群	79	73.3	a 248	81.3	b 79	3.92	b
	F値	2.83	†	5.46	**	5.82	**	

※男女別および学齢別は t 検定結果、Parent Mediation 群別は一元配置分散分析結果。a, b の記号は Tukey の多重範囲検定により同符号間では危険率 5%未満の水準で有意差がないことを示す。\*:  $p < .01$ , †:  $p < .10$ , n. s.: 有意差なし。

※スマートフォン利用時間およびスマホ依存の N 数は、子どもにスマートフォンを利用させていると回答した回答者数。スマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末の利用時間の N 数は子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末のいずれかの機器利用させている回答者数。

スマートフォンに加え、携帯電話、パソコン、タブレット端末 4 種の情報機器利用合計時間は子どもの性別、学齢別にみて有意差はないものの、母親の PM 別では、スマートフォン利用時間同様、低位群、中位群、高位群の順に子どもの情報機器利用時間が有意に長い傾向がある。母親の PM 実施度が高いほど、子どもの情報機器の利用時間が長くなるという結果は前述の Sanders et al. (2016) と一致する。

最後にスマホ依存尺度得点では、子どもの性別に差は見られないが、学齢別では学齢が上がるほど得点が高くなる傾向があり、未就学児と就学児との間に有意差がみられた。母親の PM 別では低位群、中位群、高位群の順に得点結果が高く、低位群、中位群と高位群の間にその得点に有意な差が認められた。

以上の結果から、母親の PM 得点が高いほど、子どものスマートフォン利用時間および

スマートフォン・携帯電話・パソコン・タブレット機器の利用時間合計が長く、スマホ依存尺度得点が高いことが示された。しかしながら、子どもの情報機器利用時間が長く、スマホ依存の傾向があるから母親がPMを実施するのか、その逆なのかは明らかではない。したがって、これらの因果関係についてはさらなる調査分析が待たれる。

#### 4.4 母親の Parental Mediation と子どものスマートフォン利用の効用認知

母親の子どもへのメディア利用への介入と母親による子どものスマートフォン利用の効用に対する認知はどのような関係があるのだろうか。本節では母親の Parental Mediation<sup>3</sup>群と子どものスマートフォン利用の効用認知に関する Q8 について検討する。Q8 では子どものスマートフォン利用の結果、子どもの様々な能力やスキル、知識、身体、言動、生活時間や習慣、人間関係にどのような変化があったかについて 26 項目を設定し、「お子さんがスマートフォンを使うようになってから、お子さんに、次のような変化はありましたか。それぞれについて、あてはまるものを選択してください。※変化を感じていない場合は「変わらない」を選択してください。」の設問文で、「増えた」「やや増えた」「変わらない」「やや減った」「減った」の選択肢で尋ねている。対象は子どもにスマートフォンを利用させていると回答した母親 (N=219) である。

図 4.1 に 26 項目に対し、「増えた」「やや増えた」の回答を合算し、「増えた」に、「やや減った」「減った」の回答を合算し、「減った」に、「変わらない」の 3 回答を「増えた」降順に並べ替えた結果を示す。「情報や知識の量」、「ものの見方の広がり」、「自己表現への積極性」、「表現能力や創造性」の項目で約半数前後の母親が増えたと回答した。子どものスマートフォンの利用について、知識や情報、視野の広がり、表現力や創造性の増加といった点で母親は概ねポジティブな評価をしているといえよう。「会話、発話能力」についても「増えた」の回答が 29.7%と、約 3 割の母親がポジティブな評価をしている。

翻って、スマートフォンのネガティブな効用に対しては、「攻撃的な言動」について 21.5%の母親が増えたと回答、また、「健康への悪影響（視力の悪化、運動不足、肥満など）」も 16.9%の母親が増えたと回答し、スマートフォン利用のネガティブな効用も少なからず母親に認知されていることが示された。しかしながら、減少したものに関する回答においては「睡眠時間(12.3%)」「身体を動かす機会や活動(11.4%)」、「自分の頭で考える習慣(9.6%)」、「学習・勉強する時間(8.2%)」、「子どもとのコミュニケーション(7.3%)」との回答結果となり、全体的に多くはないものの、WHO やアメリカ小児学会が注意喚起している心身の発達や生活時間への影響が懸念は少なからずあるといえよう。スマートフォンがもたらす幅広い情報や機会は子どもの能力や世界を拓いていくと同時に、健康面でのリスクや悪影響をもたらす可能性があるという二面性がある。しかしながら、ネガティブな効用やリスクを回避するだけでなく、ポジティブに活用されることによる効用やメリットが拡大する

ような使い方、使わせ方も併せて検討していくことに意義があるだろう。

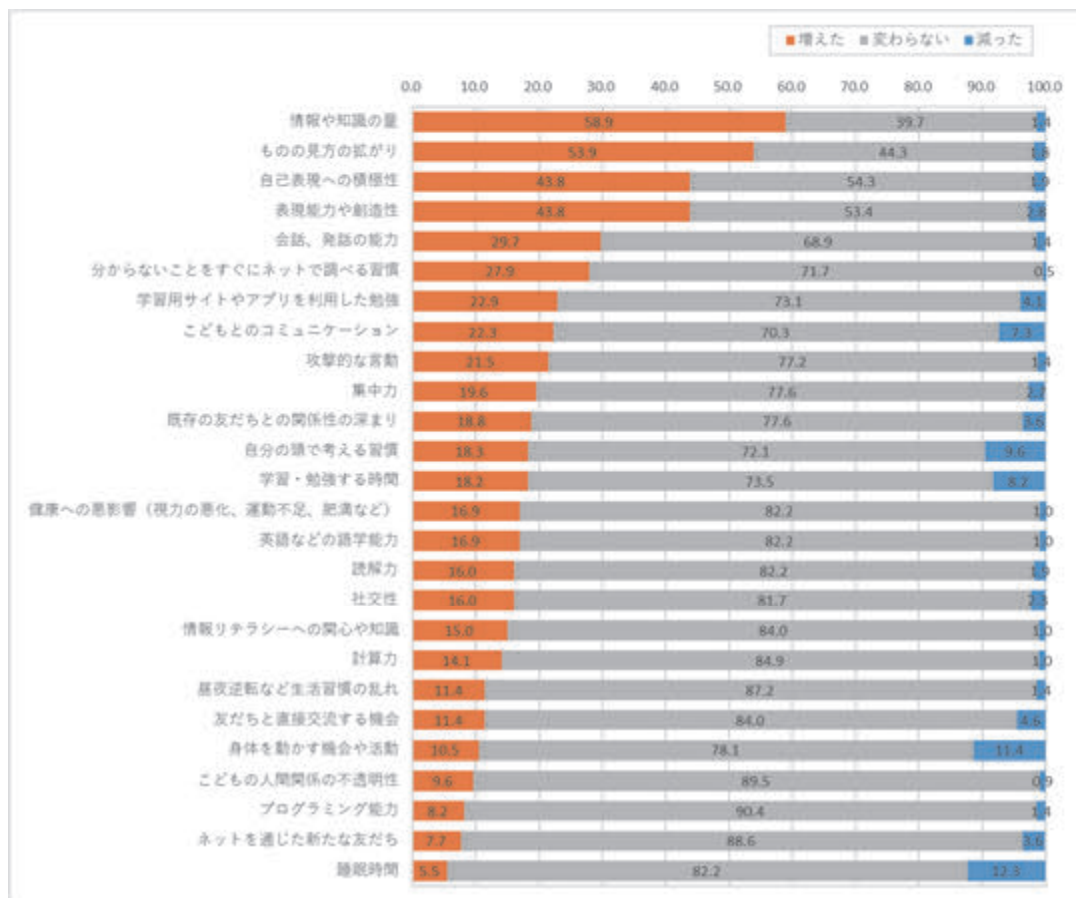


図 4.1 子どものスマホ利用効用認知回答結果 (%)

※N数は、子どもにスマートフォンを利用させていると回答した回答者数(N=219)。「増えた」「やや増えた」の回答を合算し、「増えた」に、「やや減った」「減った」の回答を合算し、「減った」に、「変わらない」の3回答を「増えた」降順に並べ替えた結果。

続いて、これら子どものスマートフォン利用の効用認知について母親のPM群別に比較した結果を表4.8に示す。増えたものについて、「表現能力や創造性」、「会話、発話の能力」、「こどもとのコミュニケーション」の3項目について有意差はないものの、「英語などの語学能力」、「計算力」の2項目においてPM3群間でやや有意傾向があり、それ以外の項目で3群の間に有意差がみられた。減ったものについては、「睡眠時間」および「身体を動かす機会や活動」ともに有意差はなかった。概ね、全ての項目において高位群の母親がスマートフォン利用のポジティブおよびネガティブな効用のいずれも回答率が高く、低位群ほど回答率が低い結果となり、PMを実施しているほど、スマホの効用についてポジティブ、

ネガティブなものともに認識しているといえよう。この結果は、母親の PM への積極度は少なからず子どものスマートフォン利用の効用認知に影響を与えていることを示唆しており、興味深い。親の子どもの情報機器利用へのかかわり方や介入の仕方が、子どもの情報機器利用をより豊かに、安全なものにするとすれば、子どものメディアリテラシー教育だけでなく、親へのメディアリテラシー教育や安全な利用への知識の提供などが求められよう。

表 4.8 母親の PM 群別 子どものスマートフォン利用の効用認知 (%)

N=219		Parent Mediation			χ <sup>2</sup> 値	検定結果
		低位群	中位群	高位群		
		83	57	79		
増えた	分からないことをすぐにネットで調べる習慣	12.0	21.1	49.4	29.83	***
	自分の頭で考える習慣	10.8	12.3	30.4	12.20	**
	学習用サイトやアプリを利用した勉強	7.2	19.3	41.8	27.96	***
	学習・勉強する時間	6.0	14.0	34.2	22.41	***
	情報や知識の量	45.8	66.7	67.1	9.51	**
	ものの見方の広がり	42.2	57.9	63.3	7.77	*
	自己表現への積極性	33.7	43.9	54.4	7.04	*
	表現能力や創造性	37.3	49.1	46.8	2.35	n.s.
	英語などの語学能力	9.6	19.3	22.8	5.30	†
	プログラミング能力	3.6	1.8	17.7	14.95	***
	読解力	3.6	15.8	29.1	19.60	***
	会話、発話の能力	24.1	26.3	38.0	4.15	n.s.
	計算力	8.4	12.3	21.5	5.93	†
	情報リテラシーへの関心や知識	10.8	8.8	24.1	7.90	*
	ネットを通じた新たな友だち	1.2	3.5	17.7	17.37	***
	既存の友だちとの関係性の深まり	9.6	21.1	26.6	7.91	*
	こどもの人間関係の不透明性	3.6	5.3	19.0	12.70	**
	こどもとのコミュニケーション	20.5	17.5	27.8	2.30	n.s.
	友だちと直接交流する機会	4.8	3.5	24.1	19.57	***
	社交性	10.8	10.5	25.3	8.02	*
	昼夜逆転など生活習慣の乱れ	9.6	1.8	20.3	11.62	**
	健康への悪影響（視力の悪化、運動不足、肥満など）	7.2	15.8	27.8	12.32	**
	集中力	13.3	14.0	30.4	9.06	*
	攻撃的な言動	19.3	12.3	30.4	6.81	*
減った	睡眠時間	14.5	8.8	12.7	1.02	n.s.
	身体を動かす機会や活動	7.2	10.5	16.5	3.47	n.s.

※N 数は子どもにスマートフォンを利用させていると回答した回答者数。増加項目については「増えた」「やや増えた」と回答した割合、減少項目については「減った」「やや減った」と回答した割合と Parent Mediation 3 群のクロス集計の  $\chi^2$  検定結果。\*\*\*:  $p < .001$ , \*\*:  $p < .01$ , \*:  $p < .05$ , †:  $p < .10$ , n. s.: 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。



#### 4.5 母親の Parental Mediation と情報機器利用効用認知

最後に母親自身の情報機器利用の効用認知について、PM 群別に検討する。Q22 では母親の情報機器の効用認知について尋ねている。設問文は「仕事と家庭における情報機器利用の考え方などについて、あなたのお考えにあてはまるものをお選びください。※情報機器を所持していない方は「3. どちらとも言えない」をお選びください。」である。「まったくそう思う」「そう思う」と回答した割合と Parent Mediation<sup>3</sup> 群のクロス集計結果を表 4.9 に示す。

「スマートフォンは私の生活のペースを加速させている」、「スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた」、「スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている」、「スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている」の 4 項目で 3 群間に有意差が認められ、4 項目全てにおいて高位群の回答率が高い。子どものスマートフォン利用の効用認知同様、母親の情報機器の利用効用認知についてもポジティブ、ネガティブ両方の効用が認知されており、PM を積極的にやっているほど、自身の情報機器利用の効用をより認知する傾向があるといえよう。

高位群においては、特に「スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた」というポジティブな評価に対して、中位群および低位群と比較して有意に回答割合が高く、情報機器が時間効率を高めていることに対する評価が高い。中位群においては、「スマートフォンは私から時間を奪っている」の回答率が有意に高く、逆にスマートフォンは時間を奪う存在であるという認識が他の層と比較して高いといえよう。低位群では、いずれの項目も他の層と比較して回答率が低い傾向があり、PM に消極的なほど、自身の情報機器利用の効用に対する関心がそもそも低いのかもしれない。

表 4.9 母親の PM 群別 母親の情報機器効用認知 (%)

	Parent Mediation			χ <sup>2</sup> 値	検定結果
	低位群	中位群	高位群		
N=736	250	238	248		
スマートフォンは家事や育児などをより効率化してくれている	45.2	50.0	48.0	1.14	n.s.
スマートフォンは私の生活のペースを加速させている	23.2	32.4	38.7	14.06	***
スマートフォンは私の生活満足度を高めてくれる	45.2	51.3	50.0	2.02	n.s.
スマートフォンは私から時間を奪っている	43.6	52.9	46.0	4.58	n.s.
スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている	26.0	26.1	28.2	0.41	n.s.
スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている	26.8	31.9	35.1	4.05	n.s.
スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた	14.0	13.9	27.8	20.94	***
スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている	25.2	45.8	46.0	29.73	***
スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい	22.0	25.2	30.2	4.48	n.s.
スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている	6.8	12.2	14.9	8.49	*

※N 数は子どもにスマートフォン、携帯電話、パソコン、タブレット端末いずれかの機器利用させている回答者数。「まったくそう思う」「そう思う」と回答した割合と Parent Mediation<sup>3</sup> 群のクロス集計の χ<sup>2</sup> 検定結果。\*\*\*: p< .001, \*: p< .05, n.s.: 有意差なし。

※残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」、赤字は「有意に低い」ことを示す。

## 参考文献

- American Academy of Pediatrics [AAP] (2016). Media and young minds. *Pediatrics*, 138(5), e20162591. <https://doi.org/10.1542/peds.2016-2591>.
- Clark, L. S. (2011). Parental mediation theory for the digital age. *Communication theory*, 21(4), 323-343.
- Duerager, A., & Livingstone, S. (2012). How can parents support children's Internet safety? London: EU Kids Online Network.
- 橋元・久保隅・大野 (2019) 「育児と ICT—乳幼児のスマホ依存、育児中のデジタル機器利用、育児ストレス」, 『東京大学大学院情報 学環 情報学研究 調査研究編』No. 35, pp. 53-103.
- 一般社団法人日本教育情報化振興会 (2018) 「平成 29 年度公益財団法人 J K A 補助事業 教育現場の I C T 安全安心対策事業 0 歳児からの IT 機器利用と保護者の情報モラル 報告書」, <http://www2.japet.or.jp/file/ParentsMoral.pdf> (2020 年 1 月 5 日アクセス)
- Lauricella, A. R., Wartella, E., & Rideout, V. J. (2015). Young children's screen time: The complex role of parent and child factors. *Journal of Applied Developmental Psychology*, 36, 11-17.
- 内閣府 (2019) 「平成 30 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」 <https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h30/net-jittai/pdf-index.html> (2020 年 1 月 5 日アクセス)
- Nikken, P., & Schols, M. (2015). How and why parents guide the media use of young children. *Journal of child and family studies*, 24(11), 3423-3435.
- Nikken, P., & Jansz, J. (2014). Developing scales to measure parental mediation of young children's internet use. *Learning, Media and technology*, 39(2), 250-266.
- Sanders, W., Parent, J., Forehand, R., & Breslend, N. L. (2016). The roles of general and technology-related parenting in managing youth screen time. *Journal of Family Psychology*, 30(5), 641.
- World Health Organization. (2019). Guidelines on physical activity, sedentary behaviour and sleep for children under 5 years of age. <https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/311664/9789241550536-eng.pdf>. Accessed 13 November 2019.

## 5. 育児ストレスと、スマホの効用・情報源・子供の共感性・問題行動

本章では母親の育児ストレスを中心に、育児情報の信頼性、スマートフォン利用の効用・コスト感、子供の共感性および問題行動について分析を行う。

### 5.1 母親の育児ストレス

母親の育児ストレスの度合いについて、荒木、兼松、横沢、荒屋敷、相墨 & 藤島 (2005)による育児ストレスショートフォーム日本版より、「親自身に関するストレス」因子から「私は親であることを楽しんでいる」「私は子どもを産んでから、やりたいことがほとんどできないと感じている」「子どもを産んでから、私の周囲の人は、期待したほど援助やサポートをしてくれない<sup>1)</sup>」「私は以前のように物事を楽しめない」「いつも、子どもが何か悪いことをすると、私のあやまちだと感じてしまう」の5項目を用い、点数化した。回答の選択肢は原典にならない、「まったく違う」「違う」「どちらともいえない」「そのとおり」「まったくそのとおり」の5件法を用い、順に1点～5点とした。5項目の点数を合算し、母親の育児ストレス得点とした。クロンバックの $\alpha$ 係数は0.70であった<sup>2)</sup>。

母親の育児ストレス得点について、子供（以降、第一子）の就学状況（就学児：小学生以上、未就学児：小学生未満）および子供の性別毎の平均値と標準偏差を表 5.1.1 に示す。育児ストレスの平均値は 14.00（最小値 5、最大値 25、標準偏差 3.63）であり、就学状況、子供の性別による有意な差は見られなかった。

表 5.1.1 母親の育児ストレス（就学状況・性別の平均値）

	母親の育児ストレス		
	n	M	SD
全体	1240	14.00	3.63
未就学児	526	14.10	3.52
就学児	714	13.87	3.71
男児	626	14.16	3.75
女児	614	13.77	3.50

※就学状況・性別のカテゴリ毎の t 検定の結果、有意差なし<sup>3)</sup>。就学児は小学生。

### 5.2 育児情報源と育児ストレス

#### 5.2.1 育児情報源と信頼度

子供の育児についての情報源として用いるメディアやサービス、人、機関について、子供の就学状況、性別、世帯年収、母親の最終学歴、母親の就業形態毎の該当率を表 5.2.1 に

1 「こどもを産んでから、私の夫は、期待したほど援助やサポートをしてくれない」から、配偶者が不在の場合に対応するために文言変更を行った。

2 削除することで $\alpha$ 係数が高まる項目はなし。

3 世帯年収、母親の最終学歴、母親の就業形態毎の分析も行ったが、有意差は見られなかった。

示す。

表 5.2.1 育児の情報源

(就学状況・性別・世帯年収・母親の最終学歴・就業形態毎の該当率：%)

	N	書籍	雑誌	テレビ	新聞	ネット上の記事	
全体	1240	39.2%	25.9%	70.4%	16.5%	71.0%	
未就学児	526	39.5%	24.9%	74.1%	13.9%	71.3%	
就学児	714	38.9%	26.6%	67.6%	18.3%	70.7%	
男児	626	38.3%	24.9%	68.7%	17.4%	70.8%	
女児	614	40.1%	26.9%	72.1%	15.5%	71.2%	
400万円未満	242	32.2%	32.2%	70.2%	9.1%	68.2%	
600万円未満	337	35.9%	35.9%	71.8%	14.2%	78.3%	
800万円未満	228	45.2%	45.2%	71.9%	22.8%	76.3%	
800万円以上	186	47.8%	47.8%	72.0%	22.0%	69.4%	
中高卒	336	22.9%	22.9%	63.4%	9.2%	64.6%	
短大・高専卒	440	40.5%	40.5%	74.1%	13.9%	72.7%	
大学・大学院卒	445	50.6%	50.6%	72.8%	24.0%	75.1%	
フルタイム	261	46.4%	30.7%	70.9%	23.8%	69.3%	
パートタイム	382	33.0%	23.0%	68.1%	15.7%	70.4%	
専業主婦	577	40.9%	26.3%	72.1%	13.5%	73.0%	
			SNS(LINE、Twitterなど)のコミュニティやグループ	ママ友などの友人・知人	配偶者やパートナー	医師や助産師、保育園/幼稚園/こども園/小学校の先生や職員などの育児の専門家	行政や自治体の相談窓口
全体	1240	45.3%	43.3%	78.7%	74.0%	68.8%	15.4%
未就学児	526	45.2%	44.7%	75.5%	75.3%	73.4%	16.7%
就学児	714	45.4%	42.3%	81.1%	73.1%	65.4%	14.4%
男児	626	44.7%	40.9%	78.3%	72.5%	69.8%	18.4%
女児	614	45.9%	45.8%	79.2%	75.6%	67.8%	12.4%
400万円未満	242	43.4%	42.6%	74.8%	59.9%	68.6%	13.2%
600万円未満	337	50.7%	44.8%	82.5%	80.4%	72.4%	15.4%
800万円未満	228	52.6%	43.4%	86.0%	83.3%	72.4%	18.4%
800万円以上	186	41.9%	42.5%	75.3%	75.8%	62.9%	16.1%
中高卒	336	42.6%	45.5%	72.0%	67.9%	61.9%	12.8%
短大・高専卒	440	45.5%	44.1%	83.2%	76.1%	72.7%	14.5%
大学・大学院卒	445	48.3%	41.1%	80.0%	76.9%	71.2%	18.4%
フルタイム	261	43.3%	45.6%	73.6%	65.9%	70.5%	16.5%
パートタイム	382	43.2%	42.7%	79.3%	72.8%	66.8%	13.1%
専業主婦	577	47.7%	43.0%	80.8%	78.9%	69.0%	16.5%

※性別等のカテゴリ毎に $\chi^2$ 検定の結果有意であった割合について、残差分析で有意に大きい場合に青太字、有意に小さい場合に赤太字で示している（有意水準：5%）。世帯年収、最終学歴、就業形態は欠損値があるためNの総数が異なる。就学児は小学生。

全体として、もっとも該当率が高かったのは「ママ友などの友人・知人」で、78.7%であった。ついで、配偶者やパートナー(74.0%)、ネット上の記事(71.0%)、テレビ(70.4%)、育児の専門家(68.8%)と続き、その他は50%未満であった。

子供の就学状況別には、未就学児は就学児よりもテレビ(74.1%)、育児の専門家(73.4%)

を情報源とする率が有意に高く、就学児は就学児よりも新聞（18.3%）、ママ友などの友人・知人（81.1%）を情報源とする率が有意に高かった。

子供の性別では総じて差が見られなかったが、行政や自治体の相談窓口を情報源とする率は男児の場合に18.4%と有意に高かった。

子供の世帯年収別では、世帯収入が大きいほど書籍、雑誌、新聞を情報源にする率が有意に高かった。母親の最終学歴については、総じて中高卒であるほど、各情報源への該当率が有意に低い傾向にあった（ネット掲示板やQ&Aサイト、SNSのコミュニティやグループ、行政や自治体の相談窓口を除く）。

母親の就業形態では、フルタイム勤務者は書籍（46.4%）、新聞（23.8%）の該当率が有意に高く、配偶者やパートナー（65.9%）の該当率が有意に低かった。

続いて、各情報源をどの程度信頼しているかについて分析を行った。各情報源について、「とても信頼している」「やや信頼している」「あまり信頼できない」「まったく信頼できない」の4段階で回答を得て、「とても信頼している」または「やや信頼している」に該当した場合に、信頼できる情報源に該当するものとした。子供の就学状況、性別、世帯年収、母親の最終学歴毎の該当率（信頼率）を表5.2.2に示す。

全体として、育児の専門家が88.1%ともっとも高く、次いでママ友などの友人・知人、配偶者やパートナーが79.1%であった。総じて、ネット関連（ネット上の記事、ネット掲示板やQ&Aサイト、SNSのコミュニティやグループ）が40%台であるのを除いて65%以上の該当率となっており、ネット情報の信頼度の低さが際立っている。

子供の就学状況別には、未就学児よりも就学児においてSNSのコミュニティやグループの信頼度が有意に低かった（43.7%）。

子供の性別では、男児の場合に女児の場合よりも、雑誌（60.5%）、テレビ（71.1%）、新聞（66.8%）、SNSのコミュニティやグループ（43.1%）、行政や自治体の相談窓口（63.4%）と有意に低い該当率であった。

世帯年収別には、400万円未満の場合に、書籍（68.2%）、雑誌（57.0%）、配偶者やパートナー（64.9%）の該当率が有意に低く、600万円以上800万円未満の場合、ママ友などの友人・知人（90.8%）、配偶者やパートナー（88.2%）、育児の専門家（94.7%）の該当率が有意に高かった。

母親の最終学歴別には、中高卒の場合にネット関連の情報を除いたすべての情報源において、有意に低い該当率であった。

母親の就業形態では、フルタイム勤務者は書籍（81.2%）の該当率が有意に高く、ママ友などの友人・知人（77.4%）、配偶者やパートナー（72.4%）の該当率が有意に低かった。

表 5.2.2 育児情報の信頼度

(就学状況・性別・世帯年収・母親の最終学歴・就業形態毎の信頼率：%)

	N	書籍	雑誌	テレビ	新聞	ネット上の記事			
全体	1240	74.4%	65.4%	74.3%	69.4%	49.2%			
未就学児	526	74.7%	66.9%	76.0%	68.6%	51.3%			
就学児	714	74.2%	64.3%	73.0%	69.9%	47.6%			
男児	626	72.2%	60.5%	71.1%	66.8%	46.8%			
女児	614	76.7%	70.4%	77.5%	72.0%	51.6%			
400万円未満	242	68.2%	57.0%	73.1%	64.9%	47.1%			
600万円未満	337	76.0%	70.3%	76.3%	71.5%	55.2%			
800万円未満	228	77.2%	69.7%	76.3%	74.6%	51.8%			
800万円以上	186	83.9%	69.4%	75.3%	72.6%	41.9%			
中高卒	336	57.4%	52.7%	67.0%	54.5%	47.0%			
短大・高専卒	440	78.4%	69.5%	78.6%	72.5%	52.7%			
大学・大学院卒	445	83.6%	71.5%	76.2%	77.8%	47.4%			
フルタイム	261	81.2%	69.7%	75.9%	75.1%	48.3%			
パートタイム	382	71.2%	63.4%	74.3%	67.5%	50.0%			
専業主婦	577	74.0%	65.3%	73.8%	68.5%	49.2%			
	N	ネット掲示板やQ&Aサイト	SNS(LINE、Twitterなど)のコミュニティやグループ	ママ友などの友人・知人	配偶者やパートナー	医師や助産師、保育園/幼稚園/こども園/小学校の先生や職員などの育児の専門家	行政や自治体の相談窓口		
全体	1240	43.2%	46.3%	82.6%	79.1%	88.1%	66.0%		
未就学児	526	44.7%	49.8%	83.1%	79.5%	89.2%	66.2%		
就学児	714	42.2%	43.7%	82.2%	78.9%	87.4%	66.0%		
男児	626	42.2%	43.1%	81.6%	77.3%	88.2%	63.4%		
女児	614	44.3%	49.5%	83.6%	80.9%	88.1%	68.7%		
400万円未満	242	40.9%	45.0%	83.5%	64.9%	87.6%	62.4%		
600万円未満	337	48.1%	49.9%	84.3%	86.1%	89.6%	70.6%		
800万円未満	228	46.9%	50.4%	90.8%	88.2%	94.7%	70.2%		
800万円以上	186	43.5%	47.3%	79.6%	82.3%	86.6%	65.1%		
中高卒	336	41.7%	44.3%	77.1%	72.9%	81.3%	53.0%		
短大・高専卒	440	45.2%	47.3%	86.6%	81.8%	92.0%	70.0%		
大学・大学院卒	445	42.0%	46.5%	83.1%	81.1%	90.3%	72.1%		
フルタイム	261	43.7%	50.6%	77.4%	72.4%	88.5%	68.6%		
パートタイム	382	42.9%	47.4%	84.0%	79.8%	88.2%	63.6%		
専業主婦	577	43.0%	43.5%	84.6%	82.1%	88.2%	66.7%		

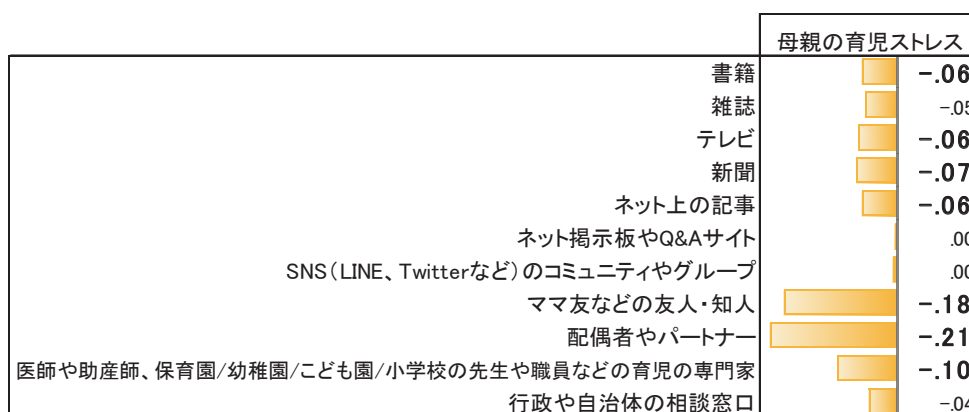
※性別等のカテゴリ毎に $\chi^2$ 検定の結果有意であった割合について、残差分析で有意に大きい場合に青太字、有意に小さい場合に赤太字で示している（有意水準：5%）。世帯年収、最終学歴、就業形態は欠損値があるためNの総数が異なる。就学児は小学生。

## 5.2.2 育児情報の信頼度と育児ストレス

各情報源への信頼度と、母親の育児ストレスとの関連を見るため、相関分析を行った。ここで各情報源への信頼度として、「とても信頼している」から「まったく信頼できない」までの4段階を、それぞれ4点から1点と点数換算した変数を用いた。分析の結果を表5.2.3に示す。

書籍 ( $r=-0.06$ )、テレビ ( $r=-0.06$ )、新聞 ( $r=-0.07$ )、ネット上の記事 ( $r=-0.06$ )、ママ友などの友人・知人 ( $r=-0.18$ )、配偶者やパートナー ( $r=-0.21$ )、育児の専門家 ( $r=-0.10$ ) において有意な相関があり、いずれも信頼度が高いほど育児ストレスが低いという方向性であった。情報源を信頼できないことが育児ストレスに結びつく関係性と、育児ストレスが高い場合（育児で困難が生じる場合）には失敗体験が増え、情報源が信頼できなくなる関係性が共にあるものと思われる。特に、友人・知人、配偶者やパートナーの情報の信頼度と育児ストレスとの関連が大きく、周囲の人間関係からなるサポートを信頼して頼ることができる場合に育児ストレスが軽減される割合が大きいものと考えられる。

表 5.2.3 育児情報の信頼度と育児ストレスとの相関



※N=1240。数値は Pearson の積率相関係数。5%水準で有意な値を太字にしている。

### 5.3 スマホの効用・コスト感と育児ストレス

#### 5.3.1 スマホの効用・コスト感

仕事と家庭におけるスマートフォン・パソコン使用の効用認知およびコスト感について、Chesley (2005) による ICT 利便性認知尺度を参考に、スマートフォン/パソコンの使用、家事育児の使用に対応するよう修正した 6 項目を作成した。また、コスト感の指標として「スマートフォンは私から時間を奪っている」「スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている」「スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている」「スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた」の 4 項目を作成した。「まったくそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の 5 件法で回答を得た<sup>4</sup>。ここでは「まったくそう思う」または「そう思う」を選択した場合に該当するものとした各項目への該当率を表 5.3.1 に示す。

<sup>4</sup> 質問票では、情報機器を所持していない場合は「どちらとも言えない」を選ぶよう注記した。



表 5.3.1 スマホの効用・コスト感

(就学状況・性別・世帯年収・母親の最終学歴・就業形態毎の該当率：%)

	N	スマートフォンは家事や育児などをより効率化してくれている	スマートフォンは私の生活のペースを加速させている	スマートフォンは私の生活満足度を高めてくれる	スマートフォンは私から時間を奪っている	スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている
全体	1240	42.7%	29.0%	46.5%	45.4%	26.1%
未就学児	526	43.7%	29.1%	46.6%	46.4%	24.5%
就学児	714	41.9%	29.0%	46.4%	44.7%	27.3%
男児	626	42.7%	30.4%	47.6%	45.8%	26.8%
女児	614	42.7%	27.7%	45.3%	45.0%	25.4%
400万円未満	242	39.7%	18.6%	40.9%	41.3%	26.9%
600万円未満	337	47.8%	34.4%	53.4%	47.5%	24.9%
800万円未満	228	41.2%	31.1%	50.4%	51.8%	25.0%
800万円以上	186	48.9%	39.2%	49.5%	48.4%	29.0%
中高卒	336	38.4%	26.5%	40.8%	38.7%	24.1%
短大・高専卒	440	43.2%	26.6%	48.4%	45.2%	26.6%
大学・大学院卒	445	45.6%	33.5%	49.4%	51.5%	27.4%
フルタイム	261	42.1%	33.0%	46.0%	44.1%	29.1%
パートタイム	382	38.7%	30.1%	46.3%	42.4%	22.8%
専業主婦	577	45.6%	26.5%	46.4%	48.2%	27.0%
	N	スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている	スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた	スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている	スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい	スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている
全体	1240	29.8%	17.3%	36.2%	25.0%	11.9%
未就学児	526	31.9%	18.1%	35.4%	28.3%	13.7%
就学児	714	28.3%	16.7%	36.8%	22.5%	10.5%
男児	626	30.2%	17.4%	35.9%	27.5%	10.7%
女児	614	29.5%	17.1%	36.5%	22.5%	13.0%
400万円未満	242	34.7%	16.9%	32.6%	21.9%	10.3%
600万円未満	337	29.4%	18.7%	36.5%	28.5%	8.6%
800万円未満	228	32.0%	14.0%	40.8%	25.9%	14.0%
800万円以上	186	31.2%	25.3%	46.2%	32.3%	17.7%
中高卒	336	28.9%	16.1%	29.5%	22.9%	9.5%
短大・高専卒	440	29.1%	16.1%	34.5%	23.0%	9.1%
大学・大学院卒	445	31.5%	19.3%	43.4%	28.5%	15.7%
フルタイム	261	35.2%	20.3%	49.4%	34.1%	16.1%
パートタイム	382	29.3%	18.3%	34.8%	22.8%	12.8%
専業主婦	577	27.7%	15.4%	31.2%	22.7%	9.7%

※性別等のカテゴリ毎に $\chi^2$ 検定の結果有意であった割合について、残差分析で有意に大きい場合に青太字、有意に小さい場合に赤太字で示している（有意水準：5%）。世帯年収、最終学歴は欠損値があるためNの総数が異なる。就学児は小学生。

スマートフォンと家事育児との関連として、「スマートフォンは家事や育児などをより効率化してくれている」の該当率は全体の42.7%であり、子供の就学状況・性別、世帯年収、母親の最終学歴、母親の就業形態による有意な差は見られなかった。

スマートフォンと日常生活との関連として、「スマートフォンは私の生活のペースを加速させている」の該当率は全体の29.0%であり、世帯年収が高いほど（800万円以上で39.2%）、また母親の最終学歴が大学・大学院卒である場合に（33.5%）有意に高い該当率

であった。「スマートフォンは私の生活満足度を高めてくれる」への該当率は全体の 46.5% であり、世帯年収が 400 万円未満の場合に 40.9%、また母親の最終学歴が中高卒である場合に 40.8%と有意に低い該当率であった。

スマートフォンと自由時間との関連として、「スマートフォンは私から時間を奪っている」への該当率は全体の 45.4%であり、母親の最終学歴が大学・大学院卒である場合に 51.5%と有意に高い該当率であった。「スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた」への該当率は全体の 17.3%であり、世帯年収が 800 万円以上の場合に 25.3%と有意に高い該当率であった。

スマートフォンと金銭的成本感との関連として、「スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている」への該当率は全体の 26.1%、「スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている」への該当率は全体の 29.8%であり、子供の就学状況・性別、世帯年収、母親の最終学歴、母親の就業形態による有意な差は見られなかった。

情報機器と仕事との関連として、「スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている」への該当率は全体の 36.2%であり、世帯年収が高いほど（800 万円以上で 46.2%）、また母親の最終学歴が大学・大学院卒である場合に 43.4%、母親の就業形態がフルタイムである場合に 49.4%と有意に高い該当率であった。「スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい」への該当率は全体の 25.0%であり、未就学児である場合に 28.3%、男児である場合に 27.5%、母親の就業形態がフルタイムである場合に 34.1%と有意に高い該当率であった。「スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている」への該当率は全体の 11.9%であり、世帯年収が 800 万円以上である場合に 17.7%、母親の最終学歴が大学・大学院卒である場合に 15.7%、母親の就業形態がフルタイムである場合に 16.1%と有意に高い該当率であった。

### 5.3.2 スマホの効用・コスト感と育児ストレス

スマホの効用・コスト感に関する各項目と母親の育児ストレスとの関連を見るため、相関分析を行った。ここでは「まったくそう思う」から「まったくそう思わない」までの 4 段階を、それぞれ 5 点から 1 点と点数換算した変数を用いた。分析の結果を表 5.3.2 に示す。

「スマートフォンは私の生活のペースを加速させている」( $r=0.09$ )、「スマートフォンは私から時間を奪っている」( $r=0.15$ )、「スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている」( $r=0.13$ )、「スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい」( $r=0.12$ )、「スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている」( $r=0.13$ )において有意な相関があり、いずれも育児ストレスを高める方向性であった。金銭や時間を失うといったコスト感や、スマートフォンやパソコンにより自宅でも仕事せざるを得ない状況

などが、育児ストレスを高める（または、育児ストレスが高いほど、情報機器の使用についてネガティブに感じやすい）ことを示している。

表 5.3.2 スマホの効用・コスト感と育児ストレスとの相関

	母親の育児ストレス
スマートフォンは家事や育児などをより効率化してくれている	.03
スマートフォンは私の生活のペースを加速させている	.09
スマートフォンは私の生活満足度を高めてくれる	.05
スマートフォンは私から時間を奪っている	.15
スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている	.13
スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている	.02
スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた	.02
スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている	-.02
スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい	.12
スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている	.13

※N=1240。数値は Pearson の積率相関係数。5%水準で有意な値を太字にしている。

#### 5.4 子供の共感性・問題行動と育児ストレス

##### 5.4.1 子供の共感性と問題行動

子供の共感性について、森下(1990)による、他者評定による幼児の共感性尺度を参考に<sup>5</sup>、「ほかの人の気持ちの変化に敏感だと思う」「そばにうれしそうにしている人がいると、うれしそうにする」「悲しんでいる人と一緒にいると、同じように悲しそうにする」「相手の立場になって、その人の気持ちを考えることができる」の4項目を新たに作成した。「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階で回答を得て、それぞれ4点～1点として合算した得点を、子供の共感性変数として用いた。クロンバックの $\alpha$ 係数は0.78であった<sup>6</sup>。

子供の問題行動について、金山・中台・磯部・岡村・佐藤・佐藤(2006)の幼児の問題行動尺度（外在化問題行動因子）より、「人や物に攻撃的である」「他の子どもがしている遊びや活動のじゃまをする」「そわそわしたり、落ち着きがない」「注意散漫である」「きまりや指示を守らない」の5項目を用いた。「よくある」「たまにある」「ほとんどない」「まったくない」の4件法で回答を得て、それぞれ4点～1点として合算した得点を、子供の問題行動変数として用いた。クロンバックの $\alpha$ 係数は0.86であった<sup>7</sup>。

<sup>5</sup> 「誰とも遊べないでいる子を見るといっしょに遊んであげたりします。」「映画やテレビなどで動物が傷ついて苦しそうにしているのを見ると、同情します。」「元気がない子を見ると心配そうにしています。」「友だちやきょうだいが元気がないとき、慰めたりします。」の4項目をもとに作成した。

<sup>6</sup> 削除することで係数が高まる項目は見られなかった。

<sup>7</sup> 削除することで係数が高まる項目は見られなかった。

子供の共感性、問題行動について、子供の就学状況、子供の性別、世帯年収、母親の最終学歴毎の平均値と標準偏差を表 5.4.1 に示す。

子供の共感性については全体平均が 11.54 ポイントであり、就学状況では未就学児が 11.73 ポイント、性別では女兒が 11.74 ポイント、最終学歴では高最終学歴であること（大学・大学院卒で 11.73 ポイント）が、それぞれ有意に高かった。

子供の問題行動については全体平均が 10.39 ポイントであり、就学状況では未就学児が 10.65 ポイント、性別では男児が 11.02 ポイント、最終学歴では中高卒が 11.00 ポイントと有意に高く、世帯年収では 800 万円以上が 9.70 ポイントと有意に低かった。

表 5.4.1 子供の共感性・問題行動  
(就学状況・性別・世帯年収・母親の最終学歴毎の平均値)

	子供の共感性			子供の問題行動		
	n	M	SD	n	M	SD
全体	1240	11.54	2.33	1240	10.39	3.57
未就学児	526	<b>11.73</b>	2.23	526	<b>10.65</b>	3.60
就学児	714	<b>11.40</b>	2.39	714	<b>10.17</b>	3.53
男児	626	<b>11.35</b>	2.29	626	<b>11.02</b>	3.55
女児	614	<b>11.74</b>	2.35	614	<b>9.72</b>	3.46
400万円未満	242	11.31	2.39	242	<b>10.59</b>	3.69
600万円未満	337	11.51	2.30	337	<b>10.78</b>	3.43
800万円未満	228	11.74	2.41	228	<b>10.43</b>	3.52
800万円以上	186	11.62	2.31	186	<b>9.70</b>	3.57
中高卒	336	<b>11.29</b>	2.42	336	<b>11.00</b>	3.53
短大・高専卒	440	<b>11.56</b>	2.20	440	<b>10.13</b>	3.45
大学・大学院卒	445	<b>11.73</b>	2.35	445	<b>10.22</b>	3.63

※就学状況・性別では t 検定、世帯年収・最終学歴では分散分析 (F 検定) の結果、5%水準で有意な差が見られたカテゴリの平均値を太字で示している。世帯年収、最終学歴は欠損値があるため N の総数が異なる。就学児は小学生。母親の就業形態では有意差は見られなかったため省略した。



#### 5.4.2 子供の共感性・問題行動と育児ストレス

子供の共感性・問題行動と母親の育児ストレスとの関連を見るため、相関分析を行った。分析の結果を表 5.4.2 に示す。

子供の共感性は母親の育児ストレスと有意な負の相関 ( $r = -0.10$ ) が、子供の問題行動は母親の育児ストレスと有意な正の相関 ( $r = 0.28$ ) が見られた。育児ストレスは子供

の共感性および問題行動に対してネガティブな影響がある可能性が示された。同時に、子供の共感性の低さや問題行動が、育児ストレス要因となる方向の影響も考えられる。

表 5.4.2 子供の共感性・問題行動と母親の育児ストレスとの相関

	母親の育児ストレス	
子供の共感性		-0.10
子供の問題行動		0.28

※N=1240。数値は Pearson の積率相関係数。いずれも 0.1%水準で有意。

## 5.5 本章のまとめ

子供では、母親の育児ストレスを中心に、情報源に対する信頼性、スマートフォン使用の効用とコスト感、子供の共感性と問題行動との関連性について検討を行った。その結果、周囲の人間関係からもたらされる情報の信頼度が高いこと、家庭での情報機器による仕事や、スマートフォンによる金銭的・時間的な負担感が高すぎないことが、それぞれ育児ストレスの緩和条件となる可能性が示された。また、育児ストレスが緩和することで、子供の共感性にポジティブな影響があり、子供の問題行動を抑制する可能性が示された<sup>8</sup>。

### <参考文献>

- Chesley, N. (2005). Blurring boundaries? Linking technology use, spillover, individual distress and family satisfaction. *Journal of Marriage and the Family*, 67, 1237-1248.
- 荒木暁子, 兼松百合子, 横沢せい子, 荒屋敷亮子, 相墨生恵, & 藤島京子. (2005). 育児ストレスショートフォームの開発に関する研究. *小児保健研究*, 64(3), 408-416.
- 金山元春, 中台佐喜子, 磯部美良, 岡村寿代, 佐藤正二, & 佐藤容子. (2006). 幼児の問題行動の個人差を測定するための保育者評定尺度の開発. *パーソナリティ研究*, 14(2), 235-237.
- 森下正康. (1990). 幼児の共感性が援助行動のモデリングにおよぼす効果. *教育心理学研究*, 38(2), p.174-181.

<sup>8</sup> いずれも、因果関係の特定にはさらなる調査研究が必要となる。

単純集計(事前調査)

<b>SQ1</b>	ご自宅で現在同居なさっている方の続柄にあてはまるものをすべてお選びください。 複数回答	%
1	配偶者	91.7
2	配偶者以外のパートナー	0.5
3	ご自身のこども	100.0
4	親	10.5
5	兄弟姉妹	2.3
6	祖父母	1.0
7	孫	0.0
8	その他の親族	0.3
9	友人・知人	0.0
10	その他	0.2
11	同居している家族はいない(一人暮らし)	0.0
	全体(N)	1240

<b>SQ2</b>	前問で「ご自身のこども」と同居していると回答された方にお伺いします。ご自宅で同居している第1子のお子さんの年齢(学齢)にあてはまるものをお選びください。 単一回答	%
1	【男児】0歳	0.0
2	【男児】1歳	0.0
3	【男児】2歳	0.0
4	【男児】3歳	6.4
5	【男児】4歳	6.2
6	【男児】5歳	6.9
7	【男児】6歳(小学生未満)	2.7
8	【男児】6歳(小学生)	4.1
9	【男児】7歳	6.0
10	【男児】8歳	5.5
11	【男児】9歳	6.5
12	【男児】10歳	6.2
13	【男児】11歳	0.0
14	【男児】12歳(小学生)	0.0
15	【男児】中学生	0.0
16	【男児】高校生・高専生	0.0
17	【男児】大学・大学院・短大・専門学校生	0.0
18	【男児】有職	0.0
19	【男児】無職	0.0
20	【女児】0歳	0.0
21	【女児】1歳	0.0
22	【女児】2歳	0.0
23	【女児】3歳	6.1
24	【女児】4歳	6.3
25	【女児】5歳	5.6
26	【女児】6歳(小学生未満)	2.3
27	【女児】6歳(小学生)	3.5
28	【女児】7歳	6.5
29	【女児】8歳	7.0
30	【女児】9歳	6.0
31	【女児】10歳	6.3
32	【女児】11歳	0.0
33	【女児】12歳(小学生)	0.0
34	【女児】中学生	0.0
35	【女児】高校生・高専生	0.0
36	【女児】大学・大学院・短大・専門学校生	0.0
37	【女児】有職	0.0
38	【女児】無職	0.0
39	第1子のこどもとは同居していない	0.0
	全体(N)	1240

## 単純集計(本調査)

<b>Q1</b>	お子さんの保育・教育状況について、普段、定期的にご利用しているものはどれですか。もっともあてはまるものを、ひとつお選びください。 単一回答	%
1	幼稚園	20.6
2	保育園	12.0
3	認定こども園	5.8
4	小学校	56.0
5	それ以外の施設(具体的にお答えください)【 】	1.2
6	利用していない	4.4
	全体(N)	1240

<b>Q2</b>	あなたのお子さんにスマートフォンを利用させるのは、何歳くらいからが望ましいと思いますか。 ※お子さんに所持させてよい年齢ではなく、利用させてよいとお考えの年齢をお答えください。 ※実際に利用させた年齢と異なっても構いません。 ※望ましい年齢が20歳以上の場合は「成人するまで利用させたくない」を選択してください。 単一回答	%
1	【 12.3 】歳くらいからが望ましい	94.4
2	成人するまで利用させたくない	5.6
	全体(N)	1240

<b>Q3</b>	実際に、お子さんにスマートフォンを利用させたのは、何歳からでしたか。 単一回答	%
1	実際には【 4.5 】歳から利用させた	20.3
2	利用させていない	79.7
	全体(N)	1240

<b>Q4</b>	現在、あなたがお子さんに見せたり、使わせたりしている情報機器についてお伺いします。それぞれの機器についてあてはまるものをお答えください。(それぞれいくつでも) 複数回答	(N)	1	2	3
			子ども専用の機器	親などと共用の機器	利用させていない
1	スマートフォン	1240	5.6	13.0	82.3
2	携帯電話(ガラケー、キッズケータイ)	1240	12.9	4.2	83.1
3	タブレット端末(iPadなど)	1240	6.9	29.4	64.4
4	パソコン	1240	1.0	18.6	80.6
5	テレビ	1240	4.7	88.4	9.0
6	ゲーム機(Nintendo Switch、ニンテンドー3DS、PlayStation 4など)	1240	22.0	25.1	55.7
					%

<b>Q5</b>	あなたが、お子さんに使わせている情報機器について、ふだんの平日、1日のおおよその利用時間をお答えください。利用していない場合は「0時間、0分」、1時間未満の場合は「0時間、30分」のようにお答えください。※子ども専用の機器と親の機器の両方を利用させている場合は合算のお時間をお答えください。 複数回答	(N)	
	スマートフォン	219	58.6 分
	携帯電話(ガラケー、キッズケータイ)	209	19.0 分
	タブレット端末(iPadなど)	442	62.7 分
	パソコン	240	25.0 分
	テレビ	1129	127.8 分
	ゲーム機(Nintendo Switch、ニンテンドー3DS、PlayStation 4など)	549	61.4 分

Q6	お子さんに見せたり、使わせたりするスマートフォンやタブレット端末などの情報機器で、よく利用しているサイトやアプリをすべてお選びください。(いくつでも)複数回答	%
1	YouTube	66.0
2	YouTube Kids	7.2
3	YouTube以外の動画サイト・アプリ	3.2
4	LINE	8.4
5	LINE以外のSNS (Twitter、Facebook、Instagramなど)	1.8
6	写真共有サイト・アプリ	5.5
7	ゲーム	26.9
8	マンガ	1.5
9	知育や学習用サイト・アプリ	15.1
10	子育てサポートアプリ(鬼から電話、など)	3.2
11	英語教育のための動画や音楽	4.6
12	絵本や童話	5.4
13	お絵かき	5.8
14	その他(具体的に)【 】	1.4
15	よく利用しているサイトやアプリはない	21.5
	全体(N)	1240

Q7	お子さんは、ふだんYouTubeなどの動画サイト・アプリで、どんな動画を見ていますか。次の中から、あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)複数回答	%
1	キャラクター・アニメ(アンパンマン、ドラえもん、など)	42.6
2	こども向け番組(いないいないばあっ!、など)	13.9
3	ユーチューバー	56.5
4	おもちゃの紹介	48.1
5	ゲームの攻略法、実況中継	23.4
6	音楽/歌手/ダンス	27.3
7	乗り物	10.6
8	動物	5.9
9	教育・知育	8.0
10	読書、絵本	5.2
11	手遊び動画	6.5
12	あてはまるものはない	1.8
	全体(N)	849

Q8	お子さんがスマートフォンを使うようになってから、お子さんに、次のような変化はありましたか。それぞれについて、あてはまるものを選択してください。※変化を感じていない場合は「変わらない」を選択してください。単一回答	(N)	1	2	3	4	5
			増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
1	分からないことをすぐにネットで調べる習慣	219	11.9	16.0	71.7	0.0	0.5
2	自分の頭で考える習慣	219	3.2	15.1	72.1	8.7	0.9
3	学習用サイトやアプリを利用した勉強	219	5.5	17.4	73.1	2.3	1.8
4	学習・勉強する時間	219	2.7	15.5	73.5	5.5	2.7
5	情報や知識の量	219	15.5	43.4	39.7	0.5	0.9
6	ものの見方の広がり	219	8.7	45.2	44.3	0.9	0.9
7	自己表現への積極性	219	8.2	35.6	54.3	0.5	1.4
8	表現能力や創造性	219	6.8	37.0	53.4	2.3	0.5
9	ネットを通じた新たな友だち	219	0.9	6.8	88.6	0.9	2.7
10	既存の友だちとの関係性の深まり	219	4.6	14.2	77.6	2.7	0.9
11	こどもの人間関係の不透明性	219	1.8	7.8	89.5	0.0	0.9
12	こどもとのコミュニケーション	219	2.7	19.6	70.3	5.9	1.4
13	昼夜逆転など生活習慣の乱れ	219	1.4	10.0	87.2	0.9	0.5
14	情報リテラシーへの関心や知識	219	1.8	13.2	84.0	0.5	0.5
15	健康への悪影響(視力の悪化、運動不足、肥満など)	219	2.3	14.6	82.2	0.5	0.5
16	睡眠時間	219	0.9	4.6	82.2	11.4	0.9
17	友だちと直接交流する機会	219	1.8	9.6	84.0	4.1	0.5
18	英語などの語学能力	219	3.7	13.2	82.2	0.5	0.5
19	プログラミング能力	219	1.4	6.8	90.4	0.5	0.9
20	読解力	219	2.3	13.7	82.2	1.4	0.5
21	会話、発話の能力	219	4.6	25.1	68.9	0.0	1.4
22	計算力	219	1.8	12.3	84.9	0.5	0.5
23	社交性	219	3.7	12.3	81.7	1.8	0.5
24	身体を動かす機会や活動	219	1.8	8.7	78.1	10.5	0.9
25	集中力	219	1.8	17.8	77.6	1.8	0.9
26	攻撃的な言動	219	4.1	17.4	77.2	0.9	0.5
							%



Q9	お子さんのスマートフォンの利用について、以下のようなことはあてはまりますか。 それぞれについて、お選びください。 単一回答	(N)	1	2
			あてはまる	あてはまらない
1	すぐにスマートフォンを使いたがる	219	69.4	30.6
2	やめようね、と言ってもスマートフォンをやめない	219	47.0	53.0
3	スマートフォンを取り上げると機嫌が悪くなる	219	40.6	59.4
4	決めた時間以上にスマートフォンをいじっていてやめられない	219	37.0	63.0
5	スマートフォンに夢中で約束をやぶったり、食事をとらなかつたりすることがある	219	22.8	77.2
6	時間つぶしのためにスマートフォンをいじっている	219	53.4	46.6
7	スマートフォンをしていたのに、していなかったフリをすることがある	219	18.7	81.3
8	必要もないのに、いつまでもだらだらスマートフォンをいじっている	219	30.1	69.9
9	いやなことがあると、気晴らしにスマートフォンをさわろうとする	219	15.1	84.9
10	スマートフォンを使いすぎて、健康に悪影響が出ている	219	8.7	91.3
11	スマートフォンを使いすぎて、学習に悪影響が出ている	219	6.8	93.2
12	学習中にスマートフォンで遊んでしまう	219	11.0	89.0
			%	

Q10	あなたのお子さんには、次のようなことがどの程度あてはまりますか。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			よくある	たまにある	ほとんどない	まったくない
1	人や物に攻撃的である	1240	3.8	27.3	35.4	33.5
2	他の子どもがしている遊びや活動のじゃまをする	1240	2.2	17.4	40.2	40.2
3	そわそわしたり、落ち着きがない	1240	6.5	27.7	34.8	31.1
4	注意散漫である	1240	9.5	33.5	30.9	26.0
5	きまりや指示を守らない	1240	6.0	31.9	36.6	25.4
			%			

Q11	あなたのお子さんには、次のようなことがどの程度あてはまりますか。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	ほかの人の気持ちの変化に敏感だと思う	1240	16.2	48.2	29.8	5.7
2	そばにうれしそうにしている人がいると、うれしそうにする	1240	35.6	51.7	10.8	1.9
3	悲しんでいる人と一緒にいると、同じように悲しそうにする	1240	18.4	51.0	27.8	2.7
4	相手の立場になって、その人の気持ちを考えることができる	1240	13.8	49.5	32.5	4.2
			%			

Q12	あなたのお子さんには、次のようなことがどの程度あてはまりますか。 単一回答	(N)		
プライベート(個人)での利用時間				
	パソコン	1240	21.06	分
	スマートフォン	1240	150.1	分
	タブレット端末(iPadなど)	1240	6.78	分
仕事での利用時間				
	パソコン	1240	69.5	分
	スマートフォン	1240	9.57	分
	タブレット端末(iPadなど)	1240	2.66	分

Q13	あなたの、パソコンやスマートフォン、タブレット端末などを利用したインターネット上のサービスのプライベートでの利用頻度についてお伺いします。 どの程度利用されているか、それぞれあてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5	6
			1日に10回以上	1日に数回程度	1日に1回程度	週に数回程度	週に1回以下	まったくくない
1	YouTube	1240	1.2	9.4	12.3	17.2	32.6	27.3
2	YouTube以外の動画サイト・アプリ	1240	0.5	4.8	5.0	6.5	15.1	68.1
3	LINE	1240	23.5	50.2	11.8	4.8	4.0	5.7
4	LINE以外のSNS (Twitter、Facebook、Instagramなど)	1240	8.7	26.6	10.7	5.8	7.3	40.8
5	ゲーム	1240	3.5	19.0	8.6	4.0	8.7	56.0
6	ブログ・まとめサイト	1240	1.9	14.0	16.0	13.3	14.5	40.2
7	ショッピングサイト・アプリ	1240	1.1	12.2	14.9	23.2	30.2	18.4
			%					

Q14	最近のあなたには、次のことがあてはまりますか。それぞれについて、お選びください。 単一回答	(N)	1	2
			あてはまる	あてはまらない
1	もともと予定していたより長時間スマートフォンを利用してしまう	1240	68.5	31.5
2	スマートフォンを利用していない時も、スマートフォンのことを考えてしまう	1240	19.9	80.1
3	スマートフォンを利用していないと、落ち着かなくなったり、憂うつになったり、落ち込んだり、いらいらしたりする	1240	14.4	85.6
4	スマートフォンの利用時間を減らそうとしても、失敗してしまう	1240	31.2	68.8
5	ますます長時間スマートフォンを利用していないと満足できなくなっている	1240	14.7	85.3
6	落ち込んだり不安やストレスを感じたとき、逃避や気晴らしにスマートフォンを利用している	1240	48.6	51.4
7	スマートフォンの利用が原因で家族や友人との関係が悪化している	1240	6.0	94.0
8	スマートフォンを利用している時間や熱中している度合いについて、ごまかしたりウソをついたことがある	1240	10.8	89.2
9	いやな気分やストレスから逃げるために、スマートフォンを利用する	1240	34.8	65.2
10	スマートフォンを使いすぎて、身体的健康に悪影響が出ている	1240	13.5	86.5
11	スマートフォンを使いすぎて、精神的健康に悪影響が出ている	1240	6.0	94.0
12	スマートフォンを使いすぎて、育児をおろそかにすることがよくある	1240	22.3	77.7
				%

Q15	あなたはお子さんの育児について、次の情報源を利用していますか。あてはまるものをお答えください。 単一回答	(N)	1	2
			利用している	利用していない
1	書籍	1240	39.2	60.8
2	雑誌	1240	25.9	74.1
3	テレビ	1240	70.4	29.6
4	新聞	1240	16.5	83.5
5	ネット上の記事	1240	71.0	29.0
6	ネット掲示板やQ&Aサイト	1240	45.3	54.7
7	SNS(LINE、Twitterなど)のコミュニティやグループ	1240	43.3	56.7
8	ママ友などの友人・知人	1240	78.7	21.3
9	配偶者やパートナー	1240	74.0	26.0
10	医師や助産師、保育園/幼稚園/こども園/小学校の先生や職員などの育児の専門家	1240	68.8	31.2
11	行政や自治体の相談窓口	1240	15.4	84.6
				%

Q16	あなたはお子さんの育児について、次の情報源を、それぞれの程度信頼できると思いますか。あてはまるものをお答えください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			とても信頼している	やや信頼している	あまり信頼できない	まったく信頼できない
1	書籍	1240	7.9	66.5	22.1	3.5
2	雑誌	1240	3.7	61.7	30.1	4.5
3	テレビ	1240	6.0	68.2	22.3	3.5
4	新聞	1240	6.3	63.1	25.6	5.1
5	ネット上の記事	1240	1.8	47.4	43.1	7.7
6	ネット掲示板やQ&Aサイト	1240	1.9	41.3	45.1	11.7
7	SNS(LINE、Twitterなど)のコミュニティやグループ	1240	2.3	44.0	43.6	10.1
8	ママ友などの友人・知人	1240	18.2	64.4	13.5	3.9
9	配偶者やパートナー	1240	22.8	56.3	14.2	6.7
10	医師や助産師、保育園/幼稚園/こども園/小学校の先生や職員などの育児の専門家	1240	30.6	57.6	9.2	2.7
11	行政や自治体の相談窓口	1240	10.6	55.5	27.3	6.6
						%

Q17	お子さんのインターネットやスマートフォンの利用やルールについて、あなたは次のことをしていますか。あてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			常にしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない
1	子どものネット利用時間を制限するサービスや契約を利用している	1240	7.7	10.2	14.7	67.4
2	子どもが閲覧したウェブサイトを確認することができるペアレントコントロールなどの措置をしている	1240	6.3	8.6	16.5	68.6
3	特定のウェブサイトブロックしたり、フィルタリングしたりするペアレントコントロールなどの措置をしている	1240	8.9	8.2	15.5	67.4
4	子どもがSNSやオンラインコミュニティに登録しているプロフィールを監視する	1240	5.9	6.4	15.2	72.6
5	子どもがやり取りしている電子メールやメッセージのメッセージを監視する	1240	5.9	8.1	14.2	71.9
6	子どもが訪れたウェブサイトを監視する	1240	5.5	9.2	15.5	69.8
7	写真、動画、音楽などを他者と共有するために子どもがアップロードすることを制限している	1240	12.3	7.3	12.3	68.1
8	子どもが子ども自身のSNSプロフィール、アカウントを持つことを制限している	1240	16.2	6.6	11.7	65.5
9	インターネットのコンテンツや内容を制限する	1240	13.6	9.0	12.0	65.3
10	インターネットにアクセスできる時間を制限する	1240	14.5	11.0	12.4	62.1
11	子どもがインターネット上で嫌な思いや経験をした場合、そのことについて子どもと話をする	1240	7.4	10.6	15.2	66.8
12	インターネットを安全に使うための方法を子どもに教える	1240	10.4	20.8	18.5	50.2
13	良いウェブサイトと悪いウェブサイトの違いや理由を子どもに説明する	1240	8.0	16.0	17.6	58.4
14	子どもとインターネットを使って何か一緒に活動をする	1240	7.1	19.0	17.9	56.0
15	子どもがインターネットを利用しているときに子どものそばにいる	1240	22.8	25.0	17.2	35.0
16	子どもがインターネットでしていることについて子どもと話をする	1240	12.3	26.0	17.7	44.1
						%

Q18	あなたは育児の際、次のような時に、スマートフォンやタブレットをお子さんに見せたり使わせたりすることが、どの程度ありますか。あてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			かなりある	ややある	あまりない	まったくない
1	怒ったり不機嫌なお子さんをなだめたり、落ち着かせたりするため	557	6.5	33.6	27.6	32.3
2	家で静かに過ごさせるため	557	11.8	48.1	19.2	20.8
3	食事のとき	557	1.8	7.4	17.8	73.1
4	電車やバスなどの公共交通機関やレストランなどの公共の場にいるとき	557	6.6	33.0	26.9	33.4
5	自分が家事をするときの子守代わり	557	10.1	37.5	21.9	30.5
6	寝かしつけのとき	557	1.3	7.0	13.1	78.6
7	勉強やテストなどのごほうびとして	557	5.2	25.0	15.8	54.0
						%

Q19	あなたはふだん、あなたのお子さんとの会話や活動中に、次の情報機器に気がそれてしまうことがどの程度ありますか。あてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5	6
			1日に10回以上	1日に数回程度	1日に1回程度	週に数回程度	週に1回以下	まったくない
1	スマートフォン	1240	4.8	32.2	19.6	11.2	9.5	22.7
2	タブレット端末 (iPadなど)	1240	0.3	3.4	4.4	3.4	4.5	84.0
3	パソコン	1240	0.5	4.0	4.0	4.2	5.0	82.3
4	テレビ	1240	2.3	27.7	18.7	11.7	9.8	29.8
								%

Q20	日常生活場面での情報機器の利用状況についてお伺いします。あなたは、次のことについて、それぞれどの程度あてはまりますか。あてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5	6
			1日に10回以上	1日に数回程度	1日に1回程度	週に数回程度	週に1回以下	まったくない
1	子どもと一緒に食事をしているときに、スマートフォンを取り出して確認してしまう	1240	1.5	16.1	17.4	15.7	13.9	35.4
2	子どもとの顔を合わせて話しているときに、メールやメッセージを送ってしまう	1240	0.6	14.4	14.1	16.8	14.0	40.2
3	子どもと話しているときに、スマートフォンが鳴ると、取り出して確認してしまう	1240	1.7	20.7	18.7	18.5	15.3	25.0
4	子どもと話しているときに、テレビの方が気になってしまう	1240	0.8	13.4	16.5	15.4	16.4	37.6
5	子どもを遊ばせているときに、スマートフォンなどを操作して、子どもへの注意力が散漫になってしまっている	1240	1.0	19.1	15.3	16.5	16.7	31.4
6	スマートフォンなどを操作していて、子どもから目を離した隙に、子どもが怪我をしそうなことがある	1240	0.2	2.3	4.0	3.6	12.8	77.0
								%

Q21	お子さんと一緒に過ごされているときのご自身の情報機器やソーシャルメディア利用についてお伺いします。 あなたのお考えや状況にあてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	子どもの前でLINEなどのSNSを使うことにはためらいがある	1240	10.2	27.2	38.0	24.6
2	手が空くと、子どもの前でもつい自分のスマートフォンを見たくてしまう	1240	22.4	46.2	19.4	11.9
3	子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することで、子どもへの注意や関心がそれてしまう	1240	8.6	43.2	33.3	14.8
4	子どもの目の前でスマートフォンなどの情報機器を利用することに罪悪感を感じる	1240	12.5	36.9	33.0	17.6
5	子どもの目の前で、自分や配偶者がスマートフォンなどの情報機器を利用することは避けたい	1240	14.0	38.5	31.9	15.6
6	公園や電車などの公共の場で子どもと一緒にいるときに、情報機器を使っていたり、子どもに使わせたりすると、周りの人からよく思われない気がする	1240	22.3	44.1	21.8	11.8
7	子どもにスマートフォンを使わせすぎている気がする	1240	7.5	18.1	28.1	46.2
8	育児ストレスから逃れるために、ついスマートフォンを使ってしまう	1240	11.4	33.4	24.9	30.3
9	育児ストレスから逃れるために、子どもにスマートフォンを使わせてしまう	1240	5.0	21.9	28.5	44.7
10	スマートフォンは子どもにとって最高のおもちゃである	1240	6.2	24.2	26.9	42.7
11	子どもは情報機器以外のおもちゃやもので遊ぶ方がよいと思う	1240	44.7	32.4	13.2	9.7
						%

Q22	仕事と家庭における情報機器利用の考え方などについて、あなたのお考えにあてはまるものをお選びください。 ※情報機器を所持していない方は「3. どちらとも言えない」をお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5
			まったくそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	まったくそう思わない
1	スマートフォンは家事や育児などをより効率化してくれている	1240	3.6	39.0	34.5	13.6	9.2
2	スマートフォンは私の生活のペースを加速させている	1240	3.1	25.9	41.0	20.0	9.9
3	スマートフォンは私の生活満足度を高めてくれる	1240	6.0	40.4	35.3	10.4	7.8
4	スマートフォンは私から時間を奪っている	1240	10.5	34.9	29.8	17.7	7.1
5	スマートフォンで生活に余分なお金がかかっている	1240	4.8	21.4	31.0	27.4	15.4
6	スマートフォンのアプリや情報収集により、生活費が節約できている	1240	4.0	25.8	38.1	21.0	11.1
7	スマートフォンを活用することで、自由に使える時間が増えた	1240	2.6	14.7	43.5	25.7	13.5
8	スマートフォンやパソコンは仕事をより効率化してくれている	1240	8.3	27.9	38.0	15.3	10.5
9	スマートフォンやパソコンがなければ、家事育児と仕事の両立は難しい	1240	5.1	19.9	41.9	19.0	14.2
10	スマートフォンやパソコンは業務量を増やしている	1240	1.6	10.2	49.1	24.6	14.4
							%

Q23	次のうち、あなたが育児をする際にあてはまるものをお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5
			まったくそのとおり	そのとおり	どちらともいえない	ちがう	まったくちがう
1	私は親であることを楽しんでいる	1240	14.5	41.0	33.9	7.4	3.2
2	私は子どもを産んでから、やりたいことがほとんどできなと感じている	1240	8.8	30.8	35.6	18.3	6.5
3	子どもを産んでから、私の周囲の人は、期待したほど援助やサポートをしてくれない	1240	6.7	16.5	30.4	29.6	16.8
4	私は以前のように物事を楽しめない	1240	7.9	20.0	30.8	25.7	15.6
5	いつも、子どもが何か悪いことをすると、私のあやまちだと感じてしまう	1240	7.5	20.9	37.0	23.4	11.2
							%

Q24	ご家庭でのお子さんとの接し方についてお伺いします。 それぞれの項目について、あなた自身がどのくらいの頻度でその行動を取るかを、選択肢の中から選んでお答えください。 お子さんとの接し方には各家庭で様々なスタイルがあり、絶対的に正しい・間違っているという基準はありませんので、ありのままをお答えください。 単一回答	(N)	1	2	3	4	5
			非常に よくある	よくある	たまにある	ほとんどない	まったくない
1	子どもが遊ぶ友だちのことをよく知っている	1240	18.9	43.5	26.9	7.8	2.9
2	子どもが外で遊んでいるとき、何をしているのか把握している	1240	21.3	41.8	24.5	8.6	3.8
3	休日には子どもをレジャー(遊園地、動物園、旅行など)に連れて行く	1240	20.3	30.6	38.0	9.4	1.7
4	子どもが何かをしてくれたときに、ありがとうと言う	1240	44.1	40.3	12.7	2.1	0.8
5	頭をなでる、抱き合う等のスキンシップをする	1240	42.3	34.1	17.7	4.9	1.0
6	子どもが何かうまくできたときには、ほめてあげる	1240	45.2	37.7	14.1	2.0	0.9
7	子どもが問題に直面していても、できるだけ本人に解決させる	1240	7.6	36.0	45.1	9.2	2.1
8	できるだけ子ども自身の意思を尊重する	1240	11.9	46.8	37.0	3.9	0.5
9	失敗することがわかっている、子どものやりたいようにやらせる	1240	7.9	33.3	44.8	12.4	1.5
10	子どもの意思とは関係なく、習い事や塾に行かせている	1240	3.7	12.0	20.2	22.3	41.9
11	どの友達と遊ぶべき(遊ぶべきでない)かを、子どもに言い聞かせている	1240	2.3	9.4	19.3	23.6	45.4
12	自分の目を離れている間、子どものことが心配で仕方ない	1240	8.9	22.0	39.7	19.8	9.7
13	子どもを叱ったりほめたりする基準が、その時の気分で左右される	1240	7.2	24.8	49.4	14.1	4.5
14	個人的なイライラを子どもにぶつけてしまうときがある	1240	7.9	26.4	49.7	12.2	3.9
15	子どものペースより、自分のペースを優先する	1240	4.8	23.2	46.0	20.7	5.2
16	ちょっとしたことで口やかましくなる	1240	11.9	33.7	40.6	11.0	2.7
17	子どもに対して、乱暴な言葉遣いになる	1240	9.0	22.9	41.7	17.3	9.1
18	子どもが悪いことをしたときには、大声で怒鳴る	1240	11.0	25.3	46.1	12.9	4.7
							96

Q26	あなたには、以下のようなことが、どのくらいあてはまりますか。 あなたのお気持ちに最も近いものをそれぞれお選びください。 単一回答	(N)	1	2	3	4
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	気分が沈んでゆううつになることがよくある	1240	15.2	36.5	32.3	16.0
2	泣いたり、泣きたくなくなったりすることがよくある	1240	9.8	29.8	36.0	24.4
3	落ち着かず、じっとしていられないことがよくある	1240	5.6	20.6	42.3	31.4
4	自分の人生は充実している	1240	12.1	48.1	28.8	11.0
5	私は、まわりの人たちとうまくいっている	1240	9.3	56.8	26.5	7.4
6	私をよく知っている人はだれもいない	1240	6.7	24.8	47.4	21.0
7	私には知人がいるが、気心の知れた人はいない	1240	9.0	25.4	43.4	22.2
8	私には、頼りにできる人がだれもいない	1240	4.7	17.2	43.1	35.1
9	人と一緒にいるのが好きだ	1240	9.5	40.7	36.8	13.0
10	人づきあいの機会があれば、喜んで参加する	1240	8.5	33.5	38.4	19.5
11	私にとって何よりも刺激的なのは、人とのつきあいである	1240	4.5	29.8	42.8	22.9
12	広く人づきあいができなくなったら、不幸になると思う	1240	4.0	19.5	46.0	30.5
13	あなたが落ちこんでいると、元気づけてくれる人がいる	1240	21.3	49.6	22.3	6.8
14	日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる人がいる	1240	14.1	45.8	30.1	10.0
15	あなたが人間関係に悩んでいると知ったら、いろいろと解決方法をアドバイスしてくれる人がいる	1240	15.2	47.3	27.6	9.9
16	あなたが不満をぶちまけたいときは、聞いてくれる人がいる	1240	24.6	48.8	19.3	7.3
17	現在の、生活に満足している	1240	17.1	46.2	25.6	11.1
18	現在の、こどもとの関係に満足している	1240	24.5	47.5	23.1	4.8
19	現在の、配偶者やパートナーとの関係に満足している	1240	18.5	40.4	22.8	18.3
						96

Q27	あなたのご職業に最もあてはまるものを1つお選びください。 単一回答	%
1	会社団体役員	0.6
2	管理職	0.6
3	フルタイム一般職	18.7
4	パートタイム・アルバイト	30.8
5	自営業・自由業	1.2
6	専業主婦	46.5
7	学生	0.2
8	無職	0.3
9	その他【 】	1.1
全体(N)		1240

